

2004 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) シラバス

syll mksyltex Ver 1.9991 (2005-3-8) by higaki@tu.chiba-u.ac.jp

2004 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) 授業科目一覧表

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF001001	図学演習	2.0	前期金曜 2 限	長尾 徹他	デザ 3
TF002001	デザイン工学セミナー (意匠系)	2.0	2 年前期月曜 2 限	デ工 (意匠系) 各教官	デザ 4
TF002002	デザイン工学セミナー (意匠系)	2.0	後期水曜 1 限	デ工 (意匠系) 各教官	デザ 4
TF015001	メディアデザイン論	2.0	2 年前期水曜 2 限	宮崎 紀郎	デザ 5
TF016001	C G 理論	2.0	2 年前期水曜 3 限	玉垣 庸一	デザ 6
TF017001	環境デザイン論	2.0	2 年前期火曜 3 限	清水 忠男	デザ 6
TF021001	環境デザイン製図演習	3.0	2 年前期火曜 4 限後半 2 年前期火曜 5 限	原 寛道他	デザ 7
TF019001	色彩科学	2.0	2 年前期金曜 4 限	日比野 治雄	デザ 8
TF018001	環境デザイン表示論演習	3.0	2 年後期金曜 1 限後半 2 年後期金曜 2 限	佐藤 公信他	デザ 9
TF023001	造形力学論	2.0	2 年前期金曜 5 限	久保 光徳	デザ 10
TF013001	デザイン文化計画	2.0	2 年前期月曜 3 限	宮崎 清他	デザ 11
TF025101	基礎製品デザイン演習 I	2.0	2 年前期水曜 4 限後半 2 年前期水曜 5 限	渡邊 誠他	デザ 12
TF025301	基礎製品デザイン演習 II(2003 入学生用)	3.0	前期水曜 4 限後半 通期水曜 5 限	渡邊 誠他	デザ 13
TF025401	基礎製品デザイン演習 III(2003 入学生用)	3.0	前期月曜 4 限後半 前期月曜 5 限	小野 健太他	デザ 14
TF026001	製品デザイン論 II	2.0	2 年前期金曜 3 限	長尾 徹	デザ 15
TF027001	視覚デザイン演習	3.0	2 年前期木曜 4 限後半 2 年前期木曜 5 限	玉垣 庸一他	デザ 16
TF028001	デザイン文化計画演習 I	3.0	2 年後期木曜 3 限 2 年後期木曜 4 限後半	宮崎 清他	デザ 17
TF029001	材料計画演習 I	3.0	2 年後期水曜 1 限後半 2 年後期水曜 2 限	久保 光徳他	デザ 18
TF030001	材料開発計画	2.0	2 年後期月曜 4 限	(菊地 紀洋)	デザ 18
TF031101	基礎デザイン論	2.0	2 年後期火曜 1 限	堀田 明博	デザ 19
TF043401	造形デザイン演習・立体	3.0	2 年後期月曜 2 限後半 2 年後期月曜 3 限	瀧 徹他	デザ 20
TF032001	デザインシステム計画 I	2.0	2 年後期火曜 2 限	杉山 和雄他	デザ 21
TF033101	製品デザイン演習 I	3.0	2 年後期火曜 4 限 2 年後期火曜 5 限前半	釜池 光夫他	デザ 22
TF034001	製品人間工学	2.0	2 年後期月曜 5 限	勝浦 哲夫他	デザ 22
TF035001	デザイン文化計画演習 II	3.0	3 年前期木曜 1 限後半 3 年前期木曜 2 限	宮崎 清	デザ 23
TF036001	人間工学演習 I	5.0	3 年前期月曜 3 限後半 3 年前期月曜 4,5 限	勝浦 哲夫他	デザ 24
TF037001	材料計画演習 II	3.0	3 年前期月曜 1 限後半 3 年前期月曜 2 限	青木 弘行他	デザ 25
TF039001	デザインシステム計画演習 I	3.0	3 年前期水曜 4 限後半 3 年前期水曜 5 限	桐谷 佳恵他	デザ 25
TF039003	デザインシステム計画演習 I	3.0	3 年前期木曜 4 限後半 3 年前期木曜 5 限	釜池 光夫他	デザ 26
TF040001	製品デザイン演習 II	3.0	2 年後期木曜 4 限後半 2 年後期木曜 5 限	小野 健太他	デザ 27

2004 年度 工学部デザイン工学科 A コース (デザイン) シラバス

授業コード	授業科目名	単位数	開講時限等	担当教員	頁
TF041001	環境デザイン演習 I	3.0	3 年前期金曜 4 限後半 3 年前期金曜 5 限	清水 忠男 ^他	デザ 28
TF042101	デザイン心理学演習 I	3.0	3 年前期火曜 3 限 3 年前期火曜 4 限前半	日比野 治雄	デザ 29
TF043101	造形デザイン演習・平面	3.0	3 年前期木曜 4 限 3 年前期木曜 5 限前半	堀田 明博 ^他	デザ 30
TF038101	生活デザイン造形演習	3.0	3 年前期水曜 1,2 限	堀田 明博 ^他	デザ 31
TF044001	環境デザイン演習 II	3.0	3 年後期金曜 4 限後半 3 年後期金曜 5 限	清水 忠男	デザ 31
TF045001	生理人類学	2.0	3 年後期火曜 2 限	勝浦 哲夫 ^他	デザ 32
TF046001	材料計画演習 III	3.0	3 年後期木曜 4 限後半 3 年後期木曜 5 限	青木 弘行 ^他	デザ 33
TF047001	デザインシステム計画 II	2.0	3 年後期火曜 1 限	杉山 和雄 ^他	デザ 34
TF048001	デザインシステム計画演習 II	3.0	3 年後期金曜 3,4,5 限	釜池 光夫 ^他	デザ 34
TF049101	デザイン心理学演習 II	3.0	3 年後期火曜 3 限 3 年後期火曜 4 限前半	日比野 治雄	デザ 35
TF050101	展示デザイン演習	3.0	3 年後期水曜 1 限後半 3 年後期水曜 2 限	佐藤 公信 ^他	デザ 36
TF060501	人間工学演習 II	3.0	4 年前期火曜 1 限後半 4 年前期火曜 2 限	勝浦 哲夫 ^他	デザ 37
TF060101	音響デザイン演習	3.0	4 年前期水曜 3 限 4 年前期水曜 4 限前半	佐藤 公信	デザ 37
TF053001	学外実習	2.0	3,4 年通期集中	デ工(意匠系)各教官	デザ 38
TF055001	メディアデザイン演習 I	3.0	2 年後期水曜 3 限 2 年後期水曜 4 限前半	宮崎 紀郎 ^他	デザ 39
TF056001	C G 演習	3.0	2 年後期水曜 4 限後半 2 年後期水曜 5 限	玉垣 庸一	デザ 39
TF057001	デジタルデザイン論	2.0	3 年前期金曜 5 限	(大平 智弘)	デザ 40
TF058001	メディアデザイン演習 II	3.0	3 年前期火曜 1 限後半 3 年前期火曜 2 限	宮崎 紀郎 ^他	デザ 41
TF059001	メディアデザイン演習 III	3.0	3 年後期木曜 3,4,5 限	(児山 啓一) ^他	デザ 41
TG093201	機械工作実習 B	1.0	4 年前期金曜 4 限 4 年前期金曜 5 限前半	渡部 武弘	デザ 42
TF062001	卒業研究(意匠・3年)	6.0	3 年後期月曜 4,5 限	デ工(意匠系)各教官	デザ 44
TF061001	デザイン工学総合プロジェクト	6.0	3 年後期月曜 4,5 限	デ工(意匠系)各教官	デザ 44
TF062101	卒業研究(意匠・4年)	6.0	4 年前期月曜 2,3,4 限 4 年後期月曜 3,4,5 限	デ工(意匠系)各教官	デザ 45
TF061004	デザイン工学総合プロジェクト	6.0	4 年前期月曜 2,3,4 限 4 年後期月曜 3,4,5 限	デ工(意匠系)各教官	デザ 45
TZ052001	知的財産権セミナー	2.0	3 年前期火曜 5 限	(三中 英治) ^他	デザ 46
TZ051001	工学倫理	2.0	3 年後期月曜 5 限	早乙女 英夫	デザ 47

授業科目名： 図学演習	
科目英訳名： Descriptive Geometry (Lec & Lab)	
担当教官： 長尾 徹, 田内 隆利	
単位数： 2.0 単位	開講時限等: 前期金曜 2 限
授業コード： TF001001	講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF1:デザイン A デザイン		専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)
TF4:デザイン A 建築		専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)	専門基礎必修 (E10)

[授業の方法]

[目的・目標] 物品および空間を把握し、操作、表示する能力を涵養し、デザインの思考展開および伝達手段として必要な基礎的図法の理論の学習と演習を行う。具体的な目標は第三角法平行投影図法および JIS 製図法の理解および実践的な運用を可能にする能力を取得することとする。

[授業計画・授業内容]

1. 第三角法平行投影図法および JIS 製図法に関するイントロダクション
2. 第三角法平行投影図法：投影法、直線、直線と平面の関係を演習を通して理解する
3. 第三角法平行投影図法：平面と平面の関係を演習を通して理解する
4. 第三角法平行投影図法：切断を演習を通して理解する
5. 第三角法平行投影図法：相関体を演習を通して理解する
6. 第三角法平行投影図法：展開を演習を通して理解する
7. 第三角法平行投影図法：軸測投影を演習を通して理解する
8. 第三角法平行投影図法に関する試験：前回までに行った内容に関する試験を行う
9. JIS 製図法：寸法、R、材質などの JIS 規格による製図の基本的な表記方法を解説する。
10. JIS 製図法：簡単な道具を実測し姿図を作成する。実測法の実習。
11. JIS 製図法：断面図 1：簡単な製品の断面図を作成する
12. JIS 製図法：断面図 2：曲面を有する製品の断面図を作成する
13. JIS 製図法：構造図 1：複雑な製品の内部構造を含めた作図を行う
14. JIS 製図法：構造図 2：複雑な製品の内部構造を含めた作図を行う
15. JIS 製図法：講評：提出された課題をもとに講評を行う

[キーワード] 第三角法図学、JIS 製図法

[教科書・参考書] ガイダンスにて紹介

[評価方法・基準] テストおよび課題提出

授業科目名：デザイン工学セミナー (意匠系)
 科目英訳名：Seminar: Introduction to Design
 担当教官：デ工 (意匠系) 各教官
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：2 年前期月曜 2 限
 授業コード：TF002001
 講義室：各研究室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン		専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)		
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)
TF5:デザイン A 意匠	専門基 礎必修 (E10)						

[授業の方法] 実習、演習など

[授業概要] デザイン工学科意匠系の各教育研究分野の教育研究内容についてセミナー形式の授業によって触れることにより、デザイン科学・デザイン計画の領域の基本的理解を求めるとともに、学生と教官のコミュニケーションの基盤の形成を促す。

[目的・目標] デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方など、受講生と教官が一体となって思考し、今後の学生生活に展望を開くこと。

[授業計画・授業内容] 10 名程度のグループを編成し、それぞれのグループ単位で 1 教育研究分野につき 3 週間、合計 4 つの教育研究分野でのセミナー形式の授業を受講する。各教育研究分野でのセミナーを終了した後、全体での討論を行う。各教育研究分野での 3 週間のセミナーは、それぞれの分野の教育研究の特色に応じて計画されるが、概ね以下の内容である。各教育研究分野でのセミナー 第 1 週：教育研究分野の教育および研究の内容紹介 第 2 週：教育研究分野の特色に応じた演習 第 3 週：演習の内容を踏まえた討論

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 第一回目の授業にて受講の意志を確認し、受講生を決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教官と受講生で相談の上、その都度決定する。受け入れ人数：185 人以下 (1 年次に限る) 課題、レポートおよびクラスにおける討論により成績評価を行う。

授業科目名：デザイン工学セミナー (意匠系)
 科目英訳名：Seminar: Introduction to Design
 担当教官：デ工 (意匠系) 各教官
 単位数：2.0 単位
 開講時限等：後期水曜 1 限
 授業コード：TF002002
 講義室：工 2 号棟 102 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン		専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)		
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)	専門基 礎必修 (E10)
TF5:デザイン A 意匠	専門基 礎必修 (E10)						

[授業の方法] 講義・演習

[目的・目標] セミナー形式の授業を通じて各教官の教育研究内容に触れることにより、デザイン領域での研究、実践に対する基本的理解を深めて行くとともに、少人数セミナーであることを活かし、学生と教官のコミュニケーションの基盤を形成することを目標とする。

[授業計画・授業内容] 各教官は配分されたグループ (3 ~ 4 名の学生) を全期間にわたって受け持ち、セミナー形式の授業を行う。全体のプロデューサー役は学年担任が務める。授業形態は、各教官が定めた課題についての実験、実習、調査ならびに考察、結果のまとめ・日々の生活体験や市場調査、現地調査にもとづく問題の発掘、ならびに解決に向けたデザイン提案・工場、施設などの見学を通じ、デザイン現場における生産、技術についてレポートなど、教官により様々な展開が考えられるが、その目指す方向は同じである。すなわち受講生は、デザイン工学科意匠系における勉学の方式や態度、問題意識や関心の持ち方などについて、きめ細かい教育、指導のもと、教官と一体となって思考し、今後の学生生活の展望を得るよう努めなければならない。各グループ単位での少人数授業が原則であるが、グループどうしが合流した全体討論や見学会など、担当教官が所属する分野単位での授業形態が適宜取り入れられることもある。また、授業形態によっては時間割外の時間に行うことがある。

[評価方法・基準] 課題、レポートおよび討論により成績評価を行う。

[備考] 第一回目の授業でグループを決定する。第二回目以降の授業時間帯については、担当教官と受講生で相談の上、その都度決定する。

TF015001

授業科目名：メディアデザイン論
 科目英訳名：Theory of Communications Media Design (Lec)
 担当教官：宮崎 紀郎
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TF015001
 開講時限等：2 年前期水曜 2 限
 講義室：工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	TF1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築			専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		専門選 択 (F30)
TH4:情報画像 A 画像システム工学					専門選 択 (F30)	その他 (Z99)		

[授業の方法] 講義

[授業概要] ビジュアルコミュニケーションに関わる媒体 (メディア) が、社会の中でどのような役割を果たしているのか、マス・コミュニケーション媒体を中心に、その機能と媒体を取り巻く状況について、具体的な事例を上げながら考察する。

[目的・目標] メディアデザインに関わる基礎的な素養を身につけること

[授業計画・授業内容] 第 1 回 オリエンテーション。この講義の概略。わたくしの考えるデザイン - - その中での「視覚媒体論」の位置づけ。第 2 回 いきなり最終回。「視覚媒体」の果たす社会的役割 - - ライフ掲載の写真をたどって。第 3 回 マス・コミュニケーション媒体とその特性。マス・コミュニケーション 4 大媒体、その他媒体。ライフサイクルと媒体接触時間。第 4 回 マス・コミュニケーション機能。環境と疑似環境。疑似環境の環境化。媒体の中継機能と環境創出機能。第 5 回 マス・コミュニケーション媒体としての新聞。わたくしたちの新聞デザインの研究から・その 1。第 6 回 報道の客観性と主観。わたくしたちの新聞デザインの研究から・その 2。第 7 回 媒体の話。媒体の歴史。写真の歴史。第 8 回 「視覚媒体」のエレメント。写真とイラストレーション。写真表現の特性。写真の見方。第 9 回 記号の話。記号と意味。ものの記号化、ことの記号化。第 10 回 二つの写真集を見る。南良和「ある山村・農民」小関与四郎「九十九里浜」。第 11 回 この授業で課したレポートの紹介と講評。レポート：新聞記事を見て、雑誌の表紙の批評、媒体と新聞の今後について。第 12 回 コミュニケーションの話。人間コミュニケーション。コミュニケーションモデル。第 13 回 広告の話。広告制作、代理店、広告費。P.R.、プロパガンダ、パブリシティ。広告と媒体との関係。第 14 回 C I の話。C I でデザインは変わったか。デザインはひとつ。第 15 回 もう一度最終回。コミュニケーションの観点から、ふたたびデザインと「視覚媒体」について考える。

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名 : C G理論
 科目英訳名 : Theory of Computer Graphics (Lec)
 担当教官 : 玉垣 庸一
 単位数 : 2.0 単位
 授業コード : TF016001

開講時限等: 2 年前期水曜 3 限
 講義室 : 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TH:情報画像 A			専門選 択他学 科科目 (F37)			
TH4:情報画像 A 画像システム工学					専門選 択 (F30)	
TJ2:都市環境 メディア メディア		専門選 択他学 科科目 (F37)				

[授業の方法] 講義だけ

[授業概要] C Gに必要なハードウェアならびにソフトウェアの基礎的、およびC Gのアルゴリズムの背景となる基礎的な数理に関する講義を行う。コンピュータによる画像生成の数理的な仕組みを色彩情報、形状情報の両側面からとらえて論じる。

[目的・目標] C Gに関わる基礎的な素養を身につけること

[授業計画・授業内容] 第1回 C G画像生成システムの概略 第2回 C G画像生成システムの仕組み ハードウェアの基礎 第3回 C G画像生成システムの仕組み アセンブリ言語によるプログラミング 第4回 サブルーチンと push, pop 第5回 2次元アフィン変換 第6回 3次元アフィン変換 図形変換と座標変換 第7回 シーングラフと push, pop 第8回 ワールド座標とローカル座標 図形変換の構文論と意味論 第9回 シーングラフからフローチャートへ 第10回 透視変換とフォトリアリズム 第11回 Zバッファアルゴリズム 第12回 レイトレーシングアルゴリズム 第13回 C Gと色1 カラーモデルと表色系 第14回 C Gと色2 C Gの陰影計算と色 第15回 試験

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名 : 環境デザイン論
 科目英訳名 : Theory of Environmental Design (Lec)
 担当教官 : 清水 忠男
 単位数 : 2.0 単位
 授業コード : TF017001

開講時限等: 2 年前期火曜 3 限
 講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TJ1:都市環境 環境	専門選 択他学 科科目 (F37)						

[授業概要] 私たちが日常生活において強く依存しているのは「人間のつくりだした環境 (human-made environment)」であり、デザインは、対象領域の如何を問わず、多かれ少なかれ、この環境づくりにかかわっている。それゆえデザインは、個別の完結を求めて終わるのではなく、より広く周囲との関わりを意識して行われなければならない。本講義は、このような考えに基づいて、環境の形成にかかわるデザインのあり方を具体例を上げながら論述してゆく。

[目的・目標] 人間と環境とのかかわり方を、人間の空間認知や心理や行動や、それらの背後にある社会・文化などを通して理解し、望ましい環境形成に果たす一人一人の役割とデザインの可能性について、ともに考える。また、実際のデザイン例を通して、環境にかかわるデザイン専門領域の広がりについて学ぶ。

[授業計画・授業内容] 1) 生活環境とデザインのかかわり / 環境にかかわる多様なデザイン 2) 私たちは空間をどのように認知しているか / 街歩きの楽しさ 学外課題「街かどを再発見する」の説明・道具貸与 3) 学外課題「街かどを再発見する」のための探検・記録 (学外) 4) 学外課題の成果物提出 他人の存在によって規定される空間 / 個人的空間領域 5) 学外課題のプレゼンテーション及びディスカッション 6) 結界 / 仕切り / 公私・内外中間領域の働き / 居心地良さの形成 7) 障害のない環境づくり / ユニバーサルデザイン 8) 移動によって把握される空間 / 公共空間のサインデザイン 9) 環境を形成する製品のデザイン : 身近な環境としての家具を例として 10) 環境から発想する新しい交通の手法と製品 : 高齢化と観光の低迷を解決しようとする新しい自転車等を例として 11) 地域の要求を具現化するデザイン : ある鉄道駅とその周辺広場のデザインを例として 12) 生き生きとした環境をいかに作るか : こどもの遊環境デザインと福祉医療施設のデザインを例として 13) 個の要求と総体の望ましいあり方をどのようにかわらせるか : 地域を視野に入れた住宅への緑の導入を例として 14) 学生としてできること : 千葉県のある町での学生による活動などを例として 15) まとめのディスカッション / 小論文 (時間内提出)

[キーワード] 環境、デザイン、human-made environment、空間認知、環境行動、ユニバーサルデザイン

[教科書・参考書] 「行動・文化とデザイン」(清水忠男著、SD 選書 鹿島出版会)、「ふれあい空間のデザイン」(清水忠男著、SD 選書 鹿島出版会)、「環境をデザインする」(環境デザイン研究会編、朝倉書店)、「ユニバーサルデザイン入門」(静岡県編、ぎょうせい) その他については、必要に応じて、その都度、指示する

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 環境デザイン製図演習、環境デザイン表示論演習、環境デザイン演習、環境デザイン演習、展示デザイン演習、音響デザイン演習

[履修要件] 各課題及び小論文は必ず提出のこと。毎回提出するゲーム・レポート等によって確認される出欠席状況は成績評価に反映する。

TF021001

授業科目名: 環境デザイン製図演習

科目英訳名: Environmental Design Drawing Methods (Lab)

担当教官: 原 寛道, (高橋 久弥), (藤本 香), 佐藤 公信

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 2 年前期火曜 4 限後半 / 2 年前期火曜 5 限

授業コード: TF021001, TF021002

講義室: 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	TF1:工業意匠 A	1997 年 専門選 択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築			専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 演習

[授業概要] 基礎的な図面表現の方法を、環境デザインに関連する公園、展示、インテリアの各空間を対象としたデザインを行いながら学ぶ。

[目的・目標] 環境デザインを行う上で必要とされる各種図面の描き方を理解・修得する。公園計画、展示計画、室内計画などに関わる具体的な事例を基に演習を行う。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 ガイダンス / 公園計画のための製図の基礎 第 2 回 " 第 3 回 " 第 4 回 " 第 5 回 " 第 6 回 展示計画のための製図の基礎 第 7 回 " 第 8 回 " 第 9 回 " 第 10 回 " 第 11 回 住宅・小店舗設計のための製図の基礎 第 12 回 " 第 13 回 " 第 14 回 " 第 15 回 "

[評価方法・基準] (記述なし)

TF019001

授業科目名 : 色彩科学	(学部・放送大学開放科目)
科目英訳名 : Color Science	
担当教官 : 日比野 治雄	
単位数 : 2.0 単位	開講時限等: 2 年前期金曜 4 限
授業コード : TF019001	講義室 : 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境							専門選択 (F30)
TF1:デザイン A デザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築		専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)
TG:電子機械 A				専門選 他学 科科 目 (F37)		専門選 択 (F30)	
TH:情報画像 A			専門選 他学 科科 目 (F37)	専門選 他学 科科 目 (F37)			
TH1:情報画像 A 情報工学			専門選 他学 科科 目 (F37)				
TH3:情報画像 A 画像材料工学			専門選 他学 科科 目 (F37)				
TH4:情報画像 A 画像システム工学			専門選 他学 科科 目 (F37)				
TJ1:都市環境 環 境	専門選 他学 科科 目 (F37)		専門選 他学 科科 目 (F37)	専門選 他学 科科 目 (F37)	専門選 択 (F30)		
TJ2:都市環境 メ ディア メディア			専門選 他学 科科 目 (F37)	専門選 他学 科科 目 (F37)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 名程度

[授業概要] 「色彩」について深く理解するためには、色彩を物理的側面と心理的側面の 2 つの側面から考える方法を会得しなければならない。本講義では、一般的に、見過ごされがちな色彩の心理的側面に焦点を当てて講義する。色を体験的に扱う実習課題も行う。

[目的・目標] 「色彩」について深く理解するためには、色彩を物理的側面と心理的側面の 2 つの側面から考える方法を会得する必要がある。色は知覚現象であるので、色についての正確な知識を得るためには、その心理的側面に対する認識が不可欠である。しかし一般的に、色彩の心理的側面については、見過ごされがちである。そこで、本授業では、特に色彩の心理的側面に焦点を当てて講義する。また、色を体験的に扱う実習課題も行う予定である。

[授業計画・授業内容] 以下のようなトピックについて詳しく解説する。・なお、下記の講義内容は、都合により変更されることもある。

1. はじめに : 色とは何か (色彩研究の歴史およびニュートンの色彩論など) 補足事項および全体のまとめ第 1 5 週 最終試験
2. 色彩の基礎理論 (ヤング・ヘルムホルツの三色説とヘリングの反対色説)
3. 「色の見え」に関する諸問題

4. マンセル表色系：ワーク・シートによる実習も含む演習課題
5. マンセル表色系：ワーク・シートによる実習も含む演習課題
6. 課題の講評とまとめ
7. 色の測定 1 (測色学の基礎, 混色と等色, RGB 表色系, CIE 表色系など)
8. 色の測定 2 (測色学の基礎, 混色と等色, RGB 表色系, CIE 表色系など)
9. 色彩の心理効果 1 (色の知覚現象の例, 色差の弁別, 色の見え, 色順応など)
10. 色彩の心理効果 2 (色の知覚現象の例, 色差の弁別, 色の見え, 色順応など)
11. 色覚異常 (色の生理的基礎過程など)
12. 色の応用 1 (色の応用的側面など)
13. 色の応用 2 (色の応用的側面など)
14. 色研究の現状および全体のまとめ
15. 試験

[キーワード] 色彩, 色, 色覚, 心理学, 知覚

[教科書・参考書] 色彩心理学入門 (大山正著) 中公新書 1169

[評価方法・基準] 出席 (毎回出席をチェックする): 30%; レポート課題: 30%; 試験: 40%

[履修要件] 特に条件はないが、毎回出席することが前提である (毎回出欠をとる)。

TF018001

授業科目名: 環境デザイン表示論演習

科目英訳名: Environmental Design Presentation Methods (Lec & Lab)

担当教官: 佐藤 公信, (中西 利恵)

単位数: 3.0 単位

開講時限等: 2 年後期金曜 1 限後半 / 2 年後期金曜 2 限

授業コード: TF018001, TF018002

講義室: 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度	
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1996 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	TF1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	TB:情報 B		専門選 択必修 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF4:デザイン A 建築			専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)			

[授業の方法] 講義, 演習

[授業概要] 様々な環境の中で、意図する空間のイメージを実際のデザイン提案として具体化するための方法について、平面表示技法、立体表示技法あわせて演習を行う。

[目的・目標] 環境デザインを行うために必要な技法を講義・演習を通して理解し、的確な表現手法を習得する。講義では、各種技法の理論的側面を、演習では、基礎的な空間表現から、スケールモデルによる表現、透視図法の着色技法までを体系的に学ぶ。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 パースペクティブ・ドローイングによる空間表示 第 3 回 ショップデザイン 第 4 回 インテリア空間のパス表現 第 5 回 エキジビションデザイン 第 6 回 空間のイメージを伝えるパス技法 第 7 回 プレゼンテーション / 課題講評 第 8 回 ガイダンス / スケールモデルによる空間表現 第 9 回 スタディモデル 面構成による「仕切られた空間」 第 10 回 展示ブースデザイン 第 11 回 スケールモデルの作成、撮影法 第 12 回 プレゼンテーション / 課題講評 第 13 回 公共空間のデザイン 第 14 回 アイディア展開 第 15 回 プレゼンテーション / 課題講評

[キーワード] 空間, パースペクティブドローイング, スケール感

[教科書・参考書] 授業で紹介する資料

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名：造形力学論

〔千葉工大開放科目〕

科目英訳名：Dynamics of Objects (Lec)

担当教官：久保 光徳

単位数：2.0 単位

開講時限等：2 年前期金曜 5 限

授業コード：TF023001

講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 自然物、人工物を含めた様々なモノの形状や形態が示す力学的意味の解釈と、その解釈をベースとした力学的な造形過程を可能とするアプローチを、理論的な理解と体験を通して紹介する。

[目的・目標] 身近なモノから大型構造物までのモノの形を観察し評価する際の一つの視点である力学的もの見方を、材料力学・構造力学をベースとした講義と小演習を通して体得させる。特に、一般的なデザイン過程において、モノの外表面に対する配慮のみでなく、そのモノの構造内部の力関係をイメージしながらデザインを進めてゆくことの重要性を示す。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 形と力の関係に対する直感的導入：長いひもと短いひも 第 2 回 引張りに耐える形：紙帯に対する検討：E と 第 3 回 外力と内力：力を伝えるものとその変形 第 4 回 力の伝達：トラスゲーム 1 第 5 回 トラスゲーム 2 第 6 回 曲げに耐える形：二つのアーチ 第 7 回 自然物の形と力：枝・竹・骨の形に対する解釈 第 8 回 異方性と等方性 第 9 回 ハニカムサンドイッチパネルの作成と実験 第 10 回 ハニカムオブジェの作成 1：シェルへの挑戦 第 11 回 ハニカムオブジェの作成 2：シェルへの挑戦 第 12 回 CAD/CAE/CAM の体験 1 第 13 回 CAD/CAE/CAM の体験 2 第 14 回 CAD/CAE/CAM の体験 3 第 15 回 CAD/CAE/CAM の体験 4

[キーワード] 形，力学的造形，CAD/CAE/CAM

[教科書・参考書] 授業にて紹介

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 材料計画演習 1

[備考] 基本的に講義形式を取るが、適宜、特定の実験装置を使用した小演習を実施するため、その実施時間は決められた授業時間の枠を超える可能性がある。

授業科目名：デザイン文化計画
 科目英訳名：Culture of Design (Lec)
 担当教官：宮崎 清, 植田 憲
 単位数：2.0 単位
 授業コード：TF013001

〔学部・放送大学・千葉工大開放科目〕

開講時限等：2 年前期月曜 3 限
 講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TE:都市環境							専門選択 (F30)
TF1:デザイン A デザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TG:電子機械 A						専門選 択 (F30)	
TH:情報画像 A				専門選 択他学 科科目 (F37)			
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択他学 科科目 (F37)						

[授業の方法] 講義

[授業概要] デザインが人類社会の生活文化形成に果たしてきた諸相を、歴史的ならびに国内外の具体的事例に基づきながら検討する。また、今日的な具体的課題と連動させながら、デザイン実践のなかで堅持していくべき生活文化創生の理念・哲学について考察する。

[目的・目標] デザインに携わる者には、生活の「あるべき姿」をいかに描くかがきわめて重要である。本講義においては、生活文化の「これまで」と「いま」の諸相の把握・解析を通して、生活の「あるべき姿」を構築するための視座の提起、ならびに、生活の「あるべき姿」の実現に向けてのデザイン活動の認識を涵養する。

[授業計画・授業内容]

1. 文化としてのデザインの今日的課題～「人心の華」としてのデザイン
2. 生活文化の構造～ケとハレのデザイン
3. 生活文化の構造～変容のメカニズム
4. 生活用具のデザイン～プリコラージュ
5. 生活用具のデザイン～一物全体活用
6. 生活用具のデザイン～一器多用
7. 生活用具のデザイン～資源循環
8. 地域振興とデザイン～ものづくりを通した生き甲斐づくり
9. 地域振興とデザイン～地域の個性の多様性 I
10. 地域振興とデザイン～地域の個性の多様性 II
11. 伝統と現在・未来～伝統の普遍性
12. 伝統と現在・未来～伝統の創新
13. デザインの方法論～内発的発展に向けてのデザインサーベイ
14. 文化としてのデザインの展望
15. テスト

[キーワード] デザイン、生活文化、価値、哲学

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介します。

[評価方法・基準] 各授業ごとに小テストを実施します。出席数、レポート、小テスト、テストを総合して評価します。

[関連科目] デザイン文化計画演習 I、II

[履修要件] 特にありません。

[備考] 各授業ごとに小テストを実施します。「デザイン文化計画研究室」にて卒業研究を希望する学生は、必ず履修してください。

TF025101

授業科目名：基礎製品デザイン演習 I

科目英訳名：

担当教官：渡邊 誠, (久米 寿明)

単位数：2.0 単位

授業コード：TF025101, TF025102

開講時限等：2 年前期水曜 4 限後半 / 2 年前期水曜 5 限

講義室：工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度				
	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)	
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)				
TF4:デザイン A 建築			専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 25

[授業概要] 製品デザインにおいて必要な基礎能力を、具体的な課題を通して習得する。主に消費財を対象に、それらの抱えるデザインの諸問題の抽出と、その解決法の具体的提案を行うことで、製品デザインにおける基礎能力を習得する。

[目的・目標] 製品デザインの最初の課題であり製品デザインの考え方とプロセスを習得する。基礎製品デザイン演習 I ではモジュールをキーワードにデザインを行う。対象物のモジュールの成り立ちとその考え方からデザインを習得する。この演習は同一のテーマで異なるデザインを 2 つ提案する。同じプロセスを 2 回体験し、一度目は教官が指導し、2 度目は各自が独自にアレンジして行う。

[授業計画・授業内容]

1. 課題説明
2. デザインコンセプトの作成方法 1
3. デザインコンセプトの作成方法 2
4. デザインターゲットの作成方法 1
5. デザインターゲットの作成方法 2
6. アイデアスケッチの展開方法 1
7. アイデアスケッチの展開方法 2
8. アイデアスケッチの展開方法 3
9. レンダリングの方法 1
10. レンダリングの方法 2
11. レンダリングの方法 3
12. プレゼンテーションテクニック 1
13. プレゼンテーションテクニック 2
14. プレゼンテーションテクニック 3
15. プレゼンテーションテクニック 4

[キーワード] デザインプロセス, モジュールデザイン

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 課題提出

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II が履修済であること基礎製品デザイン演習 II とあわせて履修すること

TF025301

授業科目名 : 基礎製品デザイン演習 II(2003 入学生用) 科目英訳名 : 担当教官 : 渡邊 誠, (久米 寿明) 単位数 : 3.0 単位 授業コード : TF025301, TF025302	開講時限等: 前期水曜 4 限後半 / 通期水曜 5 限 講義室 : 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室
---	---

科目区分表

学科 コース	入学年度	
	2003 年	2001 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	その他 (Z99)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	

[授業の方法] 演習

[受入人数] 25

[授業概要] 製品デザインにおいて必要な基礎能力を, 具体的な課題を通して習得する。主に消費財を対象に, それらの抱えるデザインの諸問題の抽出と, その解決法の具体的提案を行うことで, 製品デザインにおける基礎能力を習得する。

[目的・目標] 製品デザインの最初の課題であり製品デザインの考え方とプロセスを習得する。基礎製品デザイン演習 I ではモジュールをキーワードにデザインを行う。対象物のモジュールの成り立ちとその考え方からデザインを習得する。この演習は同一のテーマで異なるデザインを 2 つ提案する。同じプロセスを 2 回体験し, 一度目は教官が指導し, 2 度目は各自が独自にアレンジして行う。

[授業計画・授業内容]

1. 課題説明
2. デザインコンセプトの作成方法 1
3. デザインコンセプトの作成方法 2
4. デザインターゲットの作成方法 1
5. デザインターゲットの作成方法 2
6. アイデアスケッチの展開方法 1
7. アイデアスケッチの展開方法 2
8. アイデアスケッチの展開方法 3
9. レンダリングの方法 1
10. レンダリングの方法 2
11. レンダリングの方法 3
12. プレゼンテーションテクニック 1
13. プレゼンテーションテクニック 2
14. プレゼンテーションテクニック 3
15. プレゼンテーションテクニック 4

[キーワード] デザインプロセス, モジュールデザイン

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 課題提出

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II が履修済であること基礎製品デザイン演習 II とあわせて履修すること

授業科目名： 基礎製品デザイン演習 III(2003 入学生用)

科目英訳名：

担当教官： 小野 健太, 青木 護

単位数： 3.0 単位

授業コード： TF025401, TF025402

開講時限等： 前期月曜 4 限後半 / 前期月曜 5 限

講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度	
	2003 年	2001 年
TF1:デザイン A デザイン	専 門 選 択 必 修 (F20)	そ の 他 (Z99)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専 門 選 択 必 修 (F20)	
TF3:デザイン A メディアデザイン	専 門 選 択 必 修 (F20)	

[授業の方法] 演習

[授業概要] 自動車デザインのスケッチおよびレンダリングにおける表現方法を習得する。

[目的・目標] 曲面を外形線とキャラクターラインで描く方法からスタートし、面のニュアンスの表現手法まで習得する。
さらに、後半部では表示論の発展系として何らかの新しい乗り物（自動車とは限定しない）をデザインすることで、一般的なデザインの展開方法を習得する。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. 自動車の面構成
3. 面の表現方法
4. エクステリアデザイン 1
5. エクステリアデザイン 2
6. エクステリアデザイン 3
7. エクステリアデザイン 4
8. インテリアデザイン 1
9. インテリアデザイン 2
10. インテリアデザイン 3
11. インテリアデザイン 4
12. カーイメージデザイン 1
13. カーイメージデザイン 2
14. カーイメージデザイン 3
15. カーイメージデザイン 4

[キーワード] トランスポーターデザイン, プレゼンテーションメソッド

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 課題提出

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II が履修済であること基礎製品デザイン演習 II とあわせて履修すること

授業科目名：製品デザイン論 II

科目英訳名：Some Aspects of Product Design II (Lec)

担当教官：長尾 徹

単位数：2.0 単位

開講時限等：2 年前期金曜 3 限

授業コード：TF026001

講義室：工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築					専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択 (F30)		
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択 (F30)		
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法]

[授業概要] 製品デザインの各プロセスを事例を基に解説し、実践的な方法論を学習する。

[目的・目標] 製品デザインにおいて行われる様々な要件を具体的な事例を基に理解する。さらに、幾つかのグループワークによる課題を課し、知識を補完する。

[授業計画・授業内容]

1. 製品デザインの概要
2. 創造論について
3. 製品デザインの計画段階 1
4. 製品デザインの計画段階 2
5. 製品デザインのアイデア段階 1
6. 製品デザインのアイデア段階 2
7. 製品デザインの提出段階 1
8. 製品デザインの提出段階 2
9. 製品デザインの仕様段階 1
10. 製品デザインの仕様段階 2
11. 製品の効用について
12. 製品のユーザビリティについて
13. 製品の市場性について
14. 製品デザインの今日的な課題
15. テスト

[キーワード] 製品デザイン、ユーザビリティ

[評価方法・基準] テスト

授業科目名： 視覚デザイン演習

科目英訳名： Visual Communications Design (Lec & Lab)

担当教官： 玉垣 庸一, 小原 康裕, (デ工 (意匠系) 未定)

単位数： 3.0 単位

開講時限等： 2 年前期木曜 4 限後半 / 2 年前期木曜 5 限

授業コード： TF027001, TF027002

講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	T1:工業意匠 A	専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築			専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		

[授業の方法] 講義・演習

[目的・目標] 視覚デザイン基礎演習での学習内容を発展させ、より実際の講義・演習を行う。具体的な商品の CF、ポスターなどの広告展開を目標にした制作を行う。コンセプトの立案、アイデアの展開、スケッチ、プレゼンテーションの流れのなかで、視覚デザインに求められる、一連の考え方、手法を習得する。同時に、そうした制作過程においてデジタル画像データを持ち込む際に知っていなければならない色彩情報の基礎、デジタルテクニカルイラストレーション、サイエンティフィックビジュアリゼーション等の表現手法を学習する。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. コンピュータを用いた描画技術
3. オブジェクトレイアウト演習
4. フォント、文字レイアウト演習
5. 紙媒体によるハイパーテキスト「デジタルカラーの話」
6. デジタル色彩生成の基礎
7. デジタルカラーマネジメント
8. コンテンツの決定
9. ハイパーテキストの構築
10. プレゼンテーション
11. 広告対象設定と発想の展開とそのトレーニング
12. アイデアスケッチ (平面)
13. レイアウト・ブラッシュアップ 中間講評 (平面)
14. CF アイデア展開とコンテ制作
15. プレゼンテーション

[評価方法・基準] 課題提出

授業科目名： デザイン文化計画演習 I

科目英訳名： Culture of Design Seminar I (Lec & Lab)

担当教官： 宮崎 清, (大澤 浩一)

単位数： 3.0 単位

開講時限等： 2 年後期木曜 3 限 / 2 年後期木曜 4 限後半

授業コード： TF028001, TF028002

講義室： 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度	
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1994 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F30)		T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)			

[授業の方法] 演習

[授業概要] 収集整理されたデータを基に今日の生活空間がかかえている課題を見だし、解決の糸口を検討する。また、この過程で、生活空間デザインの具体的作業を行い、デザインプロセス自体を学習する。アウトプットとして、現況把握から提案までをビジュアルに表現し、プレゼンテーションを行う。現況把握や課題抽出に当たっては、現地調査やアンケート・聞き取り等の調査を行い、データの収集を行い、その分析・整理の方法を学ぶ。

[目的・目標] 身近な環境にかかわるテーマを設定し、現状を調査し、課題を整理し、解決策を検討し提案を行う。多様な解析の視座があること、多様な提案が存在しうることを実体験するとともに、最終的提案の妥当性を検討する。

[授業計画・授業内容]

1. 自分の身近な環境の把握、イメージマップの作成
2. 各自のテーマの選定、テーマの共有化と分類、共通テーマの絞り込み
3. テーマごとのグループ作業 (課題の掘り下げ、条件・フィールド等の設定)
4. テーマの抽出 (グループディスカッション) 調査計画作成 現況調査 1
5. 現況調査 2 まとめ作業 (マップと KJ カード)
6. 現況調査 3 まとめ作業 (マップと KJ カード)、追加調査の整理
7. 追加調査、まとめ作業 (マップと KJ カード)、環境マップ作成
8. 課題の検討 (マップと KJ カード)、課題図の作成
9. 改善提案作業 1
10. 改善提案作業 2
11. 提案のまとめ、プレゼンテーション
12. 生活空間デザインの事例紹介 1
13. 生活空間デザインの事例紹介 2
14. 生活空間デザインのプロセス、進め方
15. 生活空間デザインの今日的課題

[キーワード] デザイン, フィールド・サーベイ, 生活文化, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 授業のなかで紹介します。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] デザイン文化計画論、デザイン文化計画演習 II

[履修要件] 特にありません。

授業科目名： 材料計画演習 I
 科目英訳名： Materials Planning and Seminar I (Lec & Lab)
 担当教官： 久保 光徳, 寺内 文雄
 単位数： 3.0 単位
 開講時限等： 2 年後期水曜 1 限後半 / 2 年後期水曜 2 限
 授業コード： TF029001, TF029002
 講義室： 工 2 号棟 201 教室, 工 2 号棟 202 教室, 工 2 号棟 201 教室, 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 演習

[授業概要] 物理・化学的知識のみで理解される傾向にある [材料] を、[もの] を構成する造形材料、そして [ひと] の感性に影響を与える感性情報材料としてとらえなおし、使用レベルでの [材料] の本質的な特性を、「紙製造形物の制作」、および「材料に対するイメージの構造解析」等を通して体験させる。

[目的・目標] [材料計画] の枠組みの一部を構成する構造力学的アプローチと実験心理学的アプローチの理解を、演習による体験を通して修得させる。構造学的な材料使用とそれによる構造物の造形過程を体験することで、材料の役割、その位置づけを理解させる。また、材料に対する心理学的なアプローチによる材料イメージの三次元モデルによる構造化の実施を通して、材料とそれの使用者である人とのかかわりについて考察させる。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 ガイダンス、グループ分け 第 2 回 紙製大型構造物の制作 1 第 3 回 紙製大型構造物の制作 2 第 4 回 紙製大型構造物の制作 3 第 5 回 紙製大型構造物の制作 4 第 6 回 紙製大型構造物の制作 5 第 7 回 紙製大型構造物の作品評価 第 8 回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作 第 9 回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作 第 10 回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作 第 11 回 材料イメージ構造の解析と三次元モデルの制作 第 12 回 電子顕微鏡による材料表面の観察 第 13 回 天然有機材料を対象とした物理・化学実験 第 14 回 プレゼンテーション準備 第 15 回 プレゼンテーション

[キーワード] 材料イメージ, 三次元モデル, 紙製大型構造物

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 造形力学論

[備考] 準備品等は後日連絡；

授業科目名： 材料開発計画
 科目英訳名： Design for Materials Development (Lec)
 担当教官： (菊地 紀洋)
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 2 年後期月曜 4 限
 授業コード： TF030001
 講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[目的・目標] 新材料開発のための思考過程、方法、その実際等にわたる計画・立案に関する内容を講義する。特に、プラスチック材料の基礎物性から、改良、そして応用領域まで言及し、材料開発に関する最新の情報を提供する。また、加工技術について概説し、プラスチック製品の形態とその意味を説明する。

[授業計画・授業内容] 第1回 材料開発とは何か， 第2回 プラスチック材料の基礎物性(1)， 第3回 プラスチック材料の基礎物性(2)， 第4回 プラスチック材料の改良(1)， 第5回 プラスチック材料の改良(2)， 第6回 プラスチック材料の応用領域， 第7回 各種複合材料開発の現状と応用製品例， 第8回 加工技術開発(1)， 第9回 加工技術開発(2)， 第10回 加工技術開発(3)， 第11回 加工技術開発(4) 第12回 加工技術開発(5)， 第13回 プラスチック材料と環境問題， 第14回 材料開発と工業デザインの接点， 第15回 まとめ

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 成績評価法：テスト他

TF031101

授業科目名：基礎デザイン論

(専門科目共通化科目)

科目英訳名：Theory of Design Fundamentals

担当教官：堀田 明博

単位数：2.0 単位

開講時限等：2 年後期火曜 1 限

授業コード：TF031101

講義室：工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築					専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)
TJ:都市環境 B	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)			
TJ1:都市環境 環 境	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)			
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)	専門選 択他学 科科目 (F37)			

[授業の方法] 講義

[受入人数] 75 人

[受講対象] デザイン工学科意匠系 2 年生

[授業概要] 生活環境デザインの基本的概念、生活環境と人間特性との関係、ユーザ要求の特性とその収集の方法、ユーザ要求解決のプロセス、社会的な要求、特に高齢社会との関係でのデザイン等の基本知識を身につける。

[目的・目標] 生活環境デザインの基礎的知識としてデザインの基本的概念と、人間特性と生活環境を構成する製品や空間の特性との関係及びこれらに基づいたデザインプロセスについて理解する。更に、デザインにおける形態等の基本的構成原理に関する知識、また、デザインが社会的な活動という視点から、社会的問題とデザインとの関係を理解する。

[授業計画・授業内容]

1. 本講義の概要、目標
2. 我が国におけるデザインの概念と役割
3. デザインの定義とその視点、対象の広がり
4. デザインの基礎となる生活環境の捉え方
5. 人間行動と要求の関係 1

6. 人間行動と要求の関係 2
7. ユーザ要求のメカニズムと特性
8. 寸法・力に関する要求とデザイン 1
9. 寸法・力に関する要求とデザイン 2
10. 寸法・力に関する要求とデザイン 3
11. 視覚情報に関する要求とデザイン
12. 聴覚情報等の感覚情報に関する要求とデザイン
13. デザイン思考モデルとデザインプロセス
14. 高齢社会とユニバーサルデザイン
15. 試験

[キーワード] デザイン、生活、ユーザ、要求 [受講対象] デザイン、生活、ユーザ、要求 [受講対象] デザイン、生活、ユーザ、要求
デザイン、生活、ユーザ、要求

[教科書・参考書] 参考書 / 池辺陽：デザインの鍵、丸善、1992

[評価方法・基準] 出席日数、レポート提出、筆記試験

[履修要件] 専門選択必修

TF043401

授業科目名：造形デザイン演習・立体
 科目英訳名：Sculpture (Lec & Lab)
 担当教官：瀧 徹, 田内 隆利
 単位数：3.0 単位
 授業コード：TF043401, TF043402

開講時限等：2 年後期月曜 2 限後半 / 2 年後期月曜 3 限
 講義室：工 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601), 工
 2 - 工房, 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		

[授業の方法] 演習

[授業概要] 立体造形に対する視点・素材の特性と加工技術の関係、構造的機能と表現性の追求など、多面的な完成を養う。

[目的・目標] 演習では与えられた条件の中で、イメージした形を自分の視点で表現していく中で、客観性を持ちながら創造性高いものをめざす。また、人体モデルを使い人間のバランス動勢を瞬時にとらえる訓練をクロッキーや粘土で制作する。

[授業計画・授業内容] 課題・イメージデッサン (B3 画用紙、鉛筆) ・飛ぶをテーマに抽象立体制作 (楠材 30 × 25 × 11cm) ・クロッキー (木炭紙) ・テラコッタ (小品)

1. オリエンテーション / テーマ、道具の説明
2. 構想 / イメージで制作
3. 材料の分割 / 大きさと形の関係
4. 粗彫り / 全体と部分の形の性質
5. 粗彫り / テーマ、イメージの方向性
6. 全体と部分 / 表現の的確性、彫り込み
7. 形の組み合わせ / バランスと形の整理
8. 形の組み合わせ / イメージの確認、細部の表現

9. 形の組み合わせ / 表現力、空間構成
10. 完成 / 完成度
11. クロッキー / 線の使い方、動きの表現
12. クロッキー / バランス、ポーズの印象
13. テラコッタ / バランス、量的な形
14. テラコッタ / 表現力、ポーズの把握
15. 講評 / 採点

[評価方法・基準] 出席率 4/5 が条件 (60 %) 課題・制作 40 %

TF032001

授業科目名 : デザインシステム計画 I
 科目英訳名 : Design Systems Planning I (Lec)
 担当教官 : 杉山 和雄, 渡邊 誠
 単位数 : 2.0 単位 開講時限等: 2 年後期火曜 2 限
 授業コード : TF032001 講義室 : 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度	
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1996 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF4:デザイン A 建築				専門選 択必修 (F30)	専門選 択必修 (F30)	専門選 択必修 (F30)			

[授業の方法] 講義

[授業概要] デザイン企画の考え方やそのための情報分析, 具体的な計画に当たっての技術・要件のシステム論的扱い方などを、製品デザイン解析を応用しながら実例によって考察する。

[目的・目標] デザインシステム計画では、デザインマネジメントするのに必要なシステムの側面から見たデザインについて理解することを目的としている。さらにこのデザインのシステムの側面は、さまざまなものが上げられるが本講義ではこれらを包括的に理解することを目的としている。

[授業計画・授業内容] 第 1 回ガイダンス, 第 2 回デザインにおけるシステムとは, 第 3 回企業におけるデザイン部門, 第 4 回デザインにおけるマネージメント, 第 5 回デザインプロセス 1, 第 6 回デザインプロセス 2, 第 7 回デザインと CAD, 第 8 回商品ラインナップとデザイン 1, 第 9 回商品ラインナップとデザイン 2, 第 10 回モデルチェンジとデザイン, 第 11 回公共物とデザイン 1, 第 12 回公共物とデザイン 2, 第 13 回ユーザーインターフェイスデザイン 1, 第 14 回ユーザーインターフェイスデザイン 2, 第 15 回試験

[キーワード] デザインシステム, デザインマネージメント

[教科書・参考書] 別途指示

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] デザインシステム計画 II

[履修要件] なし

授業科目名： 製品デザイン演習 I
 科目英訳名： Product Design I (Lab)
 担当教官： 釜池 光夫, 長尾 徹, (宮城 壮太郎)
 単位数： 3.0 単位
 開講時限等： 2 年後期火曜 4 限 / 2 年後期火曜 5 限前半
 授業コード： TF033101, TF033102
 講義室： 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリ
 工 (2-601), 工 1-401 (デザイン実習室),
 工 2-アトリエ (2-601)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択 (F30)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] デザインにおいて重要なフォルムの展開方法を演習を通じて習得する。具体的なフォルムの考え方、コンセプトからフォルムへの展開を中真に、メタファーからフォルムへの展開、機能とフォルムのチューニングを演習により習得する。

[目的・目標] 身の回りの家電製品を対象に、機能・性能とフォルムとの整合を取る。スタイリングに特化した演習であり、製品デザイン演習?は新しく考えた機能や性能あるいは様々な特徴を確実に形として成り立たせ、かつ美しく整ったデザインを完成させる。機能・性能よりのデザインコンセプト主導型のスタイリングを習得する。

[授業計画・授業内容] 第 1 回ガイダンス・デザインレビュー、第 2 回デザインレビュー、第 3 回デザインコンセプト、第 4 回デザインコンセプト、第 5 回フォルムコンセプト、第 6 回フォルムコンセプト、第 7 回フォルム展開 1、第 8 回フォルム展開 2、第 9 回フォルム展開 3、第 10 回フォルムレビュー、第 11 回フォルムチューニング 1、第 12 回フォルムチューニング 2、第 13 回フォルムチューニング 3、第 14 回モデリング、第 15 回モデリング

[キーワード] インダストリアルデザイン、フォルム、ファンクション

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II を履修していること、製品デザイン演習 II と合わせて履修すること

授業科目名： 製品人間工学
 科目英訳名： Products Ergonomics (Lec)
 担当教官： 勝浦 哲夫, 岩永 光一
 単位数： 2.0 単位
 開講時限等： 2 年後期月曜 5 限
 授業コード： TF034001
 講義室： 工 2 号棟 202 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 講義

[授業概要] 使いやすい機器をデザインするためには人間の身体構造・機能の理解が必要である。特に身体運動の基礎となる神経筋機能、循環機能を中心に講義を行う。また、機器やインタフェースにおけるエルゴデザインの事例を紹介し、解説するとともに、デザイン評価としての人間工学の実験計画の基礎についても解説する。

[目的・目標] 製品開発における人間工学の役割と意義に関する基礎的な理解を深めるとともに、人間工学的デザイン評価の実際に関する理解を求める。また、人間工学における実験計画法、有意差検定などの統計的方法についての基礎的な知識を修得する。

[授業計画・授業内容] 第1回 序論：製品人間工学とはなにか 第2回 手の働きと製品デザイン 第3回 製品人間工学の事例(1) 第4回 製品人間工学の事例(2) 第5回 筋の構造と筋収縮(1) 第6回 筋の構造と筋収縮(2) 第7回 筋活動の測定と評価 第8回 製品人間工学の事例(3) 第9回 製品人間工学の事例(4) 第10回 インタフェースデザインと人間工学 第11回 人間工学における統計的方法の役割 第12回 人間工学における実験計画法 第13回 統計的方法(1) 正規分布とt-検定 第14回 統計的方法(2) 分散分析 第15回 期末テスト

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣鏑・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 受け入れ人数：90名以内 成績評価法：テスト他

TF035001

授業科目名：デザイン文化計画演習 II

(千葉工大開放科目)

科目英訳名：Culture of Design Seminar II (Lec & Lab)

担当教官：宮崎 清

単位数：3.0 単位

開講時限等：3年前期木曜1限後半 / 3年前期木曜2限

授業コード：TF035001, TF035002

講義室：工2号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003年	2002年	2001年	2000年	1999年	1998年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 地域社会におけるデザイン文化の諸相を、近隣地域におけるフィールド・サーベイを通して把握・解析する。また、得られた知見を地域社会に向けたデザイン提案としてまとめ、発表する。なお、フィールド・サーベイの意義・方法を学習した後、夏季休業中に地域社会に10日間ほど出向いてフィールド・サーベイを行う。

[目的・目標] 人間生活の「あるべき姿」の探求・提案としてのデザイン実践にあたっては、「これまで」および「今日」の生活文化に関する総点検を欠かすことができない。そのためには、「野に出て生活を学ぶ」フィールド・サーベイを通じて、人びとの生活文化の総体をそれぞれの地域の歴史的・風土的脈絡のなかでしっかりとみつめる必要がある。本演習は、「デザイン文化論」で学び築いた生活文化解析の視座に基づき、実際の地域社会における生活文化の「あるべき姿」を探求・提案する資質の涵養を目的としている。

[授業計画・授業内容]

1. 地域社会における自然との共生のデザイン
2. 地域社会における資源利活用のデザイン
3. 地域社会におけるアノニマス・デザイン
4. 地域社会における環境・景観形成のデザイン
5. 調査地の概要の把握
6. テーマ設定と調査計画の検討
7. 調査項目の検討
8. フィールド・サーベイの実施

9. フィールド・サーベイの実施
10. フィールド・サーベイの実施
11. フィールド・サーベイの実施
12. フィールド・サーベイのまとめ
13. フィールド・サーベイに基づいたデザイン提案の検討
14. 報告会の開催
15. フィールド・サーベイを通じたデザイン文化の展望

[キーワード] デザイン, フィールドサーベイ, 生活文化, プレゼンテーション

[教科書・参考書] 資料・参考文献等を授業のなかで紹介・提示します。

[評価方法・基準] 成績評価は、出席状況、プレゼンテーションの状況に基づいて行います。

[関連科目] デザイン文化計画、デザイン文化計画演習 I

[履修要件] 特にありません。

[備考] 「デザイン文化計画研究室」にて卒業研究を希望する学生は、必ず履修してください。

TF036001

授業科目名 : 人間工学演習 I	
科目英訳名 : Experiments on Ergonomics I (Lec & Lab)	
担当教官 : 勝浦 哲夫, 岩永 光一, 下村 義弘, (垣鍔 直), (富岡 慶)	
単位数 : 5.0 単位	開講時限等: 3 年前期月曜 3 限後半 / 3 年前期月曜 4,5 限
授業コード : TF036001, TF036002, TF036003	講義室 : 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工学部, 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インタラクティブ デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 人間工学的デザインに関する演習・講義を行い、測定手法、解析手法等を実践的に学習する。演習内容としては、使いやすさや生体の負担を少なくすることを目的とした実験・デザイン提案を行う。

[目的・目標] 人間工学的実験を通して、基本的な測定・解析手法の理解を深めるとともに、それらを実践できる技術の獲得を目指す。また、実験結果に基づいたデザイン提案の考え方について考察する。また、最新のデザイン実践における人間工学領域の実際についての理解を深める。

[授業計画・授業内容] 3つにグループ分けし、それぞれ3つのテーマについて実験、解析、パネル作成および研究発表を行う。第1回 実験概要の説明 第2回 実験データ解析方法について 第3回 製品人間工学に関する研究(1) 第4回 製品人間工学に関する研究(2) 第5回 製品人間工学に関する研究(3) 第6回 インタフェースに関する研究(1) 第7回 インタフェースに関する研究(2) 第8回 インタフェースに関する研究(3) 第9回 環境人間工学に関する研究(1) 第10回 環境人間工学に関する研究(2) 第11回 環境人間工学に関する研究(3) 第12回 人間工学の実際(1) 第13回 人間工学の実際(2) 第14回 研究発表会 第15回 研究発表会

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣鍔・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。「マンマシン・インターフェイス」佐藤方彦編、朝倉書店。

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 成績評価法: 出席、態度、プレゼンテーション

授業科目名： 材料計画演習 II

〔千葉工大開放科目〕

科目英訳名： Materials Planning and Seminar II (Lec & Lab)

担当教官： 青木 弘行, (松岡 由幸), (山中 敏正)

単位数： 3.0 単位

開講時限等： 3 年前期月曜 1 限後半 / 3 年前期月曜 2 限

授業コード： TF037001, TF037002

講義室： 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室, 工 2 号棟 102 教室, 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習および講義

[授業概要] デザイン材料に要求される性能と使われ方との関係を理論および演習の両側面から検討する。具体的には、[材料と感性との関わり]、[デザイン解としての材料と構造・形態との最適な関係] 等について、その考え方、理論、そして取り組み方を演習によって体験する。

[目的・目標] 理論と演習を通してデザインにおける材料計画のあり方を体得し、デザインに対する総合的な解析能力を養う。

[授業計画・授業内容] 以下に示す課題を行い、ポートフォリオとして視覚化する。(1) 製品の使われ方の調査から使い方を設計し、それをデザインへと展開する方法を検討する。(2) 製品が有する材料特性を解析し、そこから得られた知見を活用して新製品の提案を行う。(3) 人工素材で造られた観葉植物、建築材料、展示用食品サンプル等の価値分析を行い、イミテーション材料の意味と今後の可能性について検討する。(4) 製品の分解過程を体験し、材料活用や解体容易化設計のあり方を検討する。

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 材料計画論、造形力学論、材料計画演習 I

[備考] 準備品等は後日連絡

授業科目名： デザインシステム計画演習 I

科目英訳名： Design Systems Planning I (Lab)

担当教官： 桐谷 佳恵, (上田 義弘)

単位数： 3.0 単位

開講時限等： 3 年前期水曜 4 限後半 / 3 年前期水曜 5 限

授業コード： TF039001, TF039002

講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[受入人数] 25

[授業概要] 本演習は、インダストリアル・デザインの全てのプロセスを通じてその方法と展開について習得する。本演習では新しい機能の合成・中と外の融合をテーマに (P) では電子化ツールのデザインを (T) ではトランスポーテーションのデザインを演習により習得する。

[目的・目標] (P) 現在スタンダードになっている電子化された工業製品を、ソフトおよびハードの両方の側面よりデザインする。この場合の中と外の融合とはソフトとハードの融合を意味する。当然のことながらプロダクトインターフェイスが一つの大きなテーマとなり、新しい機能の提案とそれを受けられるデザインを行う。アピアランスおよびソフトの双方の提案を行う。(T) 新しいコンセプトの提案にともなうトランスポートのデザインを行う。ここでの機能とは、ハード的な側面よりもむしろどのように車を使うのかというソフトの提案から機能すなわち形や使い勝手に展開することを示している。今日存在しないコンセプトおよびパッケージに基づき、エクステリア・インテリア双方の提案を行う。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス・デザインレビュー
2. デザインレビュー
3. コンセプト開発とデザイ
4. 技術の発展予測とデザイン
5. コンセプト開発テーマの選定
6. ユーザーターゲットの設定
7. シナリオ設定とデザイン展開
8. デザイン展開 1
9. デザイン展開 2
10. デザインチューニング
11. デザインクリニック
12. アピアランス・エクステリアレビュー
13. ソフトウェアインターフェイス・インテリアレビュー
14. プレゼンテーション準備 1
15. プレゼンテーション準備 2

[キーワード] インダストリアルデザイン, アピアランス, ソフト, エクステリア, インテリア

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II, 製品デザイン演習 I,II 履修していること

[備考] 受講者は (P) 電子化ツールのデザイン・(T) トランスポートのデザインどちらかを受講すること。
(P) は水曜日 4 コマの半分-5 コマ (T) は金曜日 3 コマ-4 コマの半分で開講する。

TF039003

授業科目名: デザインシステム計画演習 I
 科目英訳名: Design Systems Planning I (Lab)
 担当教官: 釜池 光夫, (岡崎 良二)
 単位数: 3.0 単位
 開講時限等: 3 年前期木曜 4 限後半 / 3 年前期木曜 5 限
 授業コード: TF039003, TF039004
 講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 本演習は、インダストリアル・デザインの全てのプロセスを通じてその方法と展開について習得する。本演習では新しい機能の合成・中と外の融合をテーマに (P) では電子化ツールのデザインを (T) ではトランスポートのデザインを演習により習得する。

[目的・目標] (P) 現在スタンダードになっている電子化された工業製品を、ソフトおよびハードの両方の側面よりデザインする。この場合の中と外の融合とはソフトとハードの融合を意味する。当然のことながらプロダクトインターフェイスが一つの大きなテーマとなり、新しい機能の提案とそれを受けられることができるデザインを行う。アピランスおよびソフトの双方の提案を行う。(T) 新しいコンセプトの提案にともなうトランスポートーションのデザインを行う。ここでの機能とは、ハード的な側面よりもむしろどのように車を使うのかというソフトの提案から機能すなわち形や使い勝手に展開することを示している。今日存在しないコンセプトおよびパッケージに基づき、エクステリア・インテリア双方の提案を行う。

[授業計画・授業内容] 第1回ガイダンス・デザインレビュー, 第2回デザインレビュー, 第3回コンセプト開発とデザイン, 第4回技術の発展予測とデザイン, 第5回コンセプト開発テーマの選定, 第6回ユーザーターゲットの設定, 第7回シナリオ設定とデザイン展開, 第8回デザイン展開1, 第9回デザイン展開2, 第10回デザインチューニング, 第11回デザインクリニック, 第12回アピランス・エクステリアレビュー, 第13回ソフトウェアインターフェイス・インテリアレビュー, 第14回プレゼンテーション準備1, 第15回プレゼンテーション準備2

[キーワード] インダストリアルデザイン, アピランス, ソフト, エクステリア, インテリア

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II, 製品デザイン演習 I,II 履修していること

[備考] 受講者は (P) 電子化ツールのデザイン・(T) トランスポートーションのデザインどちらかを受講すること。
(P) は水曜日 4 コマの半分-5 コマ (T) は金曜日 3 コマ-4 コマの半分で開講する。

TF040001

授業科目名: 製品デザイン演習 II

科目英訳名: Product Design II (Lab)

担当教官: 小野 健太, (海老澤 伸樹)

単位数: 3.0 単位

授業コード: TF040001, TF040002

開講時限等: 2 年後期木曜 4 限後半 / 2 年後期木曜 5 限

講義室: 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室,
工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] トランスポートーションデザイン II ではパッケージをキーワードにデザインを行う。対象物と人間との関係をパッケージを考慮することで展開するデザインを習得する。

[目的・目標] 最終的な成果物は自動車である必要がないが人間が乗れることが条件となる。提案したデザインは、感性評価を行い、デザインコンセプトとの達成度について評価する。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. ガイダンス
3. 自動車デザイン開発の流れ
4. コンセプトおよびパッケージの作成方法 1
5. コンセプトおよびパッケージの作成方法 2
6. コンセプトレビュー 1
7. コンセプトレビュー 2
8. パッケージ作成・力学的評価 1
9. パッケージ作成・力学的評価 2

10. パッケージ作成・力学的評価 3
11. パッケージレビュー
12. コンセプト・スケッチレビュー
13. レンダリングレビュー・クリニック
14. モデルの作り方 1
15. モデルの作り方 2

[キーワード] パッケージ, 力学的ボディ剛性

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 課題提出

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II を履修していること, 製品デザイン演習 I と合わせて履修すること

TF041001

授業科目名: 環境デザイン演習 I
 科目英訳名: Environmental Design I (Lec & Lab)
 担当教官: 清水 忠男, 原 寛道
 単位数: 3.0 単位
 開講時限等: 3 年前期金曜 4 限後半 / 3 年前期金曜 5 限
 授業コード: TF041001, TF041002
 講義室: 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)		T1:工業意匠 A 専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築			専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 演習

[授業概要] 最も身近な環境形成要素である身体支持具(椅子、ソファ、ベンチ、車椅子等)を対象とした幾つかの選択課題から一つを選び、使用者の要求や使用場所の条件等の調査を経て、製品とそれが使われる場のデザイン提案を行う。各課題の優秀作品は、企業の協力を得て実物製作を行い、家具デザインコンペや、東京と大阪で開催される学生家具デザイン展への応募・出品推薦の対象となる。

[目的・目標] 「環境」は、言い換えれば「人間をとりまく状況」なのだから、誰もが日常的に接していることだ。現実を目を注げば、きわめて多くの多様なデザインの課題が広がっていることに気づかせる。本演習では、最も身近な環境形成要素である身体支持具のデザインを手がかりに、使用者と製品・空間とのかかわりを総合的にとらえる環境デザインの基本を学んで行く。

[授業計画・授業内容] 日程 1) 講義: 環境としての身体支持具 講義: 環境形成製品と場のデザイン: あるデザイナーの仕事为例として選択課題の説明 2) 講義: 各課題の背景 / 企業における開発の実際 3) 調査 (学外) 4) 講義: 環境形成製品と使用される場とのかかわり 5) 調査結果と基本方針の発表 / 講評 6) 講義: 身体支持具に関する人間工学的・心理学的の基本と可能性 講義: 身体支持具に関する構造・材料の基本と可能性 7) 講義: 身体支持具の開発プロセスと図面表現 / 模型製作技法 8) 作業 / 個別相談 9) 作業 / 個別相談 10) 身体支持具のデザイン提案の発表 / 講評 11) 環境形成製品と使用される場の図面表現 / 模型製作技法 12) 調査 (学外) 13) 作業 / 個別相談 14) 作業 / 個別相談 15) 使用される場を含めた総合的デザイン提案の発表 / 講評全課程終了後、選ばれたデザイン提案は、さらなる特別指導を経て、各協力企業の関連工場等で実習方式をとりながら実物製作に進み、その他の優秀作品とともに、秋期に学内外で発表展示を行い、各種デザインコンペや、東京と大阪で開催される学生家具デザイン展への応募・出品推薦の対象となる。なお、上記課程とは別に協力企業のショールーム見学 (任意参加) を行う。

[キーワード] 環境形成製品のデザイン, 身体支持具のデザイン, 家具デザイン, 場のデザイン

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が 10 回に満たない場合、また、課題の一部でも提出されなかった場合は、原則として単位は与えられない。成績評価は、各課題の成績と、各回に提出されたコメントの内容、出席状況を総合して行う。

TF042101

授業科目名： デザイン心理学演習 I
 科目英訳名： Design Psychology I (Lec & Lab)
 担当教官： 日比野 治雄
 単位数： 3.0 単位
 授業コード： TF042101, TF042102
 開講時限等： 3 年前期火曜 3 限 / 3 年前期火曜 4 限前半
 講義室： 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] デザインを受容するのは人間であるから、人間の行動や心理の特性について深く考察することは、より良いデザインを志向する上で、極めて重要な意味を持つ。そこで、本演習では、人間とデザインとの関わりに対する心理学的なアプローチの基礎について学ぶ。

[目的・目標] 我々人間の身の回りに存在するあらゆるもののデザインを受容するのは人間である。この自明の事実に注目すれば、人間の行動や心理の特性について深く考察することは、より良いデザインを志向する上で、極めて重要な意味を持っていることが分かるであろう。本科目では、このような視点から、人間とデザインとの関わりに対する心理学的なアプローチについて、実習的な課題も折り込みながら、体験的にその基礎から学んで行く。

[授業計画・授業内容] 以下のような内容について、演習形式で学ぶ機会を設ける：人間の知覚の基礎（知覚とはどのようなものかについて多角的に考える）；「見る」とは？（視覚系の生理学的側面およびその心理学的側面）；形の知覚（「かたち」の知覚、図と地など）；色の知覚（色彩を知覚する能力、色彩に対する心理的反応など）；デザイン心理学の基礎（デザインを心理学の観点から捉える）；その他 実習課題も行いながら、学生自身が学んだ成果をプレゼンテーションの形で発表する場も設ける。・上記の講義内容は都合により変更されることもある。

[キーワード] デザイン心理学、色彩、形、知覚

[教科書・参考書] 美と造形の心理学（北大路書房）

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 色彩科学、デザイン心理学演習 II

[履修要件] 色彩科学を履修していること。また、毎回出席することが前提である（遅刻・欠席厳禁!!）。

[備考] 受け入れ人数：40人程度 成績評価方法：課題および発表

授業科目名：造形デザイン演習・平面	
科目英訳名：Tableau (Lec & Lab)	
担当教官：堀田 明博, 瀧 徹, 田内 隆利, (小林 基輝)	
単位数：3.0 単位	開講時限等：3 年前期木曜 4 限 / 3 年前期木曜 5 限前半
授業コード：TF043101, TF043102	講義室：工 版画工房 (T2-104), 工 2 - 工房, 工 版画工房 (T2-104), 工 2 - 工房

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F30)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 演習

[受講対象] デザイン工学科意匠系 3 年

[授業概要] 表現の領域は複雑多岐に及んでおり、手描きと印刷等の制作手法の違いを理解し、造形上の問題点を幅広い視点からデザインとして検討を行う。版画は直接、平面に描くのではなく、版を使って間接的に絵を作っていく技法である。

[目的・目標] デザインに必要な計画力、構成力、そして表現力を具体的モチーフ、抽象的モチーフを通して習得することを目的とする。表現には手描き、コンピュータ、版手法を用い、制作手法の違いによる表現結果の特性を理解する。

[授業計画・授業内容] 課題・デッサン、自画像 (鉛筆) ・帽子を被る自画像 (銅版画) ・キュビズム的自画像の合成 (リトグラフ)

1. オリエンテーション / 版画の説明、下書きの描き込み
2. 自画像デッサン / 帽子の発想の工夫、描画の表現
3. 銅版画古典技法 / グランドの処理
4. 下絵の転写 / マットフィルムからの転写、その手順、描写
5. ニードルによる描画 / 描写、その描き込み方、ハッチング、表現の的確性
6. 腐食、硝酸による / 硝酸の腐食の具合、濃度、時間による変化の把握
7. 加筆、ニードル / 描き込み、描写密度、質感の表現 エッチング
8. 腐食 / 再度の腐食での版の変化 アクアチント
9. 刷り / 刷りによる効果、マージ、プレートマーク、表現力
10. 刷り / PC 上で合成加工
11. OHP 出力、転写 / JPG ファイル、フロッピーにて持参する。OHP に出力する
12. PS 版写真感光、現像 / 日光による露光の為、露光時間が不安定になるので注意
13. 刷り / アプリケ技法による平面刷り
14. 刷り / 多色による刷り
15. 講評・採点

[キーワード] デザイン、平面、造形、構成、

[評価方法・基準] 出席率 4/5 が条件 (60%)、課題、制作は 40%

授業科目名：生活デザイン造形演習	(専門科目共通化科目)
科目英訳名：Forming for Living Design (Lec & Lab)	
担当教官：堀田 明博, 田内 隆利	
単位数：3.0 単位	開講時限等：3 年前期水曜 1,2 限
授業コード：TF038101, TF038102	講義室：工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室, 工 2-アトリエ (2-601), 工 2-第一製図室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[受講対象] デザイン工学科意匠系 3 年

[授業概要] 様々な身体特性を持つユーザを配慮した日常生活製品及び空間のデザイン能力を身につけることを目的とする。ユーザの身体特性や要求と製品・空間使用との関係に生じる問題の発見能力と、これを造形として解決する能力を養う。

[目的・目標] 種々の身体特性をもつユーザと生活における製品・空間使用との関係で生じる問題発見能力を、イメージスケッチ等絵画作業で養い、これを平面造形及び立体造形として解決する能力を身につける。また、同時にこれらの解決案を視覚的表現、3次元モデル等の立体的表現によって伝達するための表現能力等を身につける。

[授業計画・授業内容] 1. 授業目的の説明 2. 第 1 課題のデザインコンセプトをイメージスケッチで抽出 3. 絵画作業等で検討 4. 同前 5. 平面・立体プレゼンテーション 6. 第 2 課題の説明 7. デザインコンセプトをイメージスケッチで抽出 8. 絵画作業等で検討 9. 同前 10. 平面・立体プレゼンテーション 11. 第 3 課題の説明 12. インフォメーションシステムの調査 13. デザインコンセプトをイメージスケッチで抽出 14. 絵画作業等で検討 15. 平面・立体プレゼンテーション

[キーワード] デザイン、ユーザ、生活、造形

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 基礎デザイン論 II

[履修要件] 2 年次で基礎デザイン論 II を履修していること。

授業科目名：環境デザイン演習 II	
科目英訳名：Environmental Design II (Lec & Lab)	
担当教官：清水 忠男	
単位数：3.0 単位	開講時限等：3 年後期金曜 4 限後半 / 3 年後期金曜 5 限
授業コード：TF044001, TF044002	講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 千葉県内の具体的な地域を対象に、現地踏査や地元の方々とのワークショップ等を行い、その地域のかかえている問題点や可能性を把握し、デザインの貢献し得るテーマを選んで、提案を行う。作業はグループによって行われ、多くの専門家の助言も得て、レベルの高い実効性のある提案にまとめる。

[目的・目標] 環境デザインを行う際、最も重要なことの一つは、多様な要求を関係づけながら総合的に考察して提案にまとめる技法や能力である。また、もう一つは、そうした問題解決の過程や提案において多様な人々の協力や理解を得る技法や能力である。それらは、机上では得られない。現場とのかかわりを通して身につけられるのである。本演習では、具体的なプロジェクトやグループ作業を通して、学生諸君が持っているそうした可能性を引き出し発展させることを目指す。

[授業計画・授業内容] 内容 1) ガイダンス / 各人の興味対象 (選択肢) の仮決定 対象別に調査方法に関するグループディスカッション 2) 現地調査 (初回の合同調査を除きグループごとに日程等を決定) 3) 調査報告と基本方針の作成作業 4) 調査報告と基本方針の作成作業 5) 調査報告と基本方針の発表・講評 招待講演 (関連領域の専門家) 6) 現地追加調査 / 地元の方々との意見交換 (グループごとに日程等を決定) 7) 基本デザイン提案作成作業 8) 基本デザイン提案作成作業 9) 基本デザイン提案の発表 / 講評 招待講演 (関連領域の専門家) 10) 中間発表会・地元の方々との意見交換 11) 現地追加調査 (グループごとに日程を決定) 12) 最終デザインのための作業 13) 最終デザインのための作業 14) 最終デザインの発表 / 講評 15) 最終発表会・地元の方々との意見交換 * 地元の方々との意見交換の日程は、学生グループや地元の方々の都合により決定される。

[キーワード] 環境デザイン, 地域計画, 地域振興, 街路計画, 広場計画, 公共サイン計画

[教科書・参考書] 必要に応じて、指示や紹介を行う。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 毎回、与えられたテーマに関するコメントを出席票を兼ねた用紙に記入して提出。出席数が 10 回に満たない場合、また、チーム作業への貢献度が極めて低い場合は、原則として単位は与えられない。成績評価は、チーム全体の成果に対する評価とチーム作業への貢献度、各回に提出された個人のコメントの内容、出席状況を総合して行う。

TF045001

授業科目名 : 生理人類学
 科目英訳名 : Physiological Anthropology (Lec)
 担当教官 : 勝浦 哲夫, 岩永 光一
 単位数 : 2.0 単位
 授業コード : TF045001
 開講時限等 : 3 年後期火曜 2 限
 講義室 : 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築					専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		
TF5:デザイン A 意匠	専門選 択科目 (F36)								

[授業の方法] 講義

[授業概要] デザインにおいて人間の機能とその特性を把握しておくことは重要である。生物としての人間の機能と特性について、進化の過程と現代の科学技術文明の視点から解説し、真に健康で快適な生活環境の構築に貢献するデザインの方向性について論じる。

[目的・目標] 生物としての人間の存在についての理解を求め、現在の科学技術に支えられた生活環境と人間との関係を、人間の生物学的特性から考察しうる能力の獲得を目指す。その上で、真に快適で健康な生活環境の構築を目指す生理人類学の視点から、デザインの進むべき方向性を考察する。

[授業計画・授業内容] 第1回 人類の進化・技術文明社会と生理人類学 第2回 人間の中枢神経系の構造と機能 (1) 第3回 人間の中枢神経系の構造と機能 (2) 第4回 人間の高次神経活動からみた快適性 (1) 第5回 人間の高次神経活動からみた快適性 (2) 第6回 人間特性としての疲労 第7回 疲労の評価手法 第8回 生理人類学とデザイン 第9回 人工環境と自然環境 第10回 温熱環境と人間 (1) 第11回 温熱環境と人間 (2) 第12回 温熱環境と人間 (3) 第13回 光環境と人間 (1) 第14回 光環境と人間 (2) 第15回 期末テスト

[教科書・参考書] 「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店、「最新生理人類学」佐藤方彦編、朝倉書店。

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 成績評価法：テスト他

TF046001

授業科目名：材料計画演習 III 科目英訳名：Materials Planning and Seminar III (Lec & Lab) 担当教官：青木 弘行, 久保 光徳, 寺内 文雄 単位数：3.0 単位 授業コード：TF046001, TF046002	(千葉工大開放科目) 開講時限等：3 年後期木曜 4 限後半 / 3 年後期木曜 5 限 講義室：工 2 号棟 202 教室
--	--

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度	
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1994 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)			
TF4:デザイン A 建築				専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)			

[授業の方法] 演習および講義

[授業概要] デザイン材料に関連した諸問題をグル - プ作業を通して考察、検討する。得られた成果はビジュアルな媒体にまとめて発表・討論会を行い、最終成果物を報告書として制作する。特に、グループ作業を通しての意見交換、およびそれらの整理・統合、そしてプレゼンテーションへのアプローチの体験を重視する。

[目的・目標] 材料計画演習における最終段階として、問題発見能力・問題解決能力・コラボレーション能力・プレゼンテーション能力等々、より高度な創造性能力を体得する。

[授業計画・授業内容] 第1回：主旨説明と前年度までの成果概説、 第2回：デザイン材料に関連した諸問題の抽出、
第3回：提起された問題に対する解決策の視点と論点に関する講義、 第4回：問題解決策の検討、 第5回：検討内容の構造的に整理とメインテーマ、サブテーマの階層化、 第6回：問題解決の視点・論点を再検討、
第7回：問題解決策の構造的明確化、 第8回：サブテーマごとでの検討作業、 第9回：同上 第10回：中間発表、
第11回：問題解決策の検討、 第12回：発表・討論会準備、 第13回：発表・討論会、 第14回：報告書の構想検討、 第15回：報告書作成

[教科書・参考書] 授業時に指示する。

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 材料計画論、造形力学論、材料計画演習 I、材料計画演習 II

[備考] 夏期休業期間中に集中合宿を行う予定。

授業科目名： デザインシステム計画 II
 科目英訳名： Design Systems Planning II (Lec)
 担当教官： 杉山 和雄, 渡邊 誠
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TF047001

開講時限等： 3 年後期火曜 1 限
 講義室： 工 2 号棟 201 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度 1994 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)		T1:工業意匠 A	専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)		

[授業の方法] 講義

[授業概要] 製品デザインの企画・デザインプロセスにおいて必要な情報の収集とその分析方法について多角的な講義を行う。デザインにおけるデータの種類と質の理解、さらにはその解析方法について習得するとともに、今後のデザインシステムに必要なシステム化の方法についての講義を行う。

[目的・目標] 日本のインハウスのデザイナーはデザインの周辺的能力、企画能力・商品開発能力・市場把握能力が要求される。本論では、このデザインが担当する企画や開発に必要な能力を習得することを目的としている。

[授業計画・授業内容] 第 1 回オリエンテーション, 第 2 回デザイン解析の利用法, 第 3 回デザインにおけるデータ, 第 4 回データの構築法, 第 5 回構造化の方法 1, 第 6 回構造化の方法 2, 第 7 回構造化の方法 3, 第 8 回構造化の方法 4, 第 9 回構造化の方法 5, 第 10 回構造化の方法 6, 第 11 回評価の方法 1, 第 12 回評価の方法 2, 第 13 回システム化の方法 1, 第 14 回システム化の方法 2, 第 15 回試験

[キーワード] 企画, 分析, デザイン

[教科書・参考書] 左脳デザインング, エクセルに学ぶ調査分析

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] デザインシステム計画 I を履修していること

授業科目名： デザインシステム計画演習 II
 科目英訳名： Design Systems Planning II (Lab)
 担当教官： 釜池 光夫, 小野 健太, (香椎 正治), (長谷川 卓哉), (安齋 利典), (澤田 均)
 単位数： 3.0 単位
 授業コード： TF048001, TF048002, TF048003

開講時限等： 3 年後期金曜 3,4,5 限
 講義室： 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリエ (2-601), 工 1-401 (デザイン実習室), 工 2-アトリエ (2-601), 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] インダストリアル・デザインにおいて必要な先行デザインの提案を、システム・デザイン (N) とアドバンスド・トランスポーターション (A) からテーマを設定し行う。双方ともデザインのシステムの側面をとらえた提案を行うとともに、その中で使われるものをデザインする。

[目的・目標] (N) プロダクトデザインの中でも、システムとしての形相を持つ物を対象とし、「システムの創出」、それらシステムにより産み出されるサービスをユーザーに提供する「具体的な機器のデザイン」までを行う。(A) トランスポーターの領域で、自動車という枠組みにとらわれることなく提案を行う。アドバンスドトランスポーターを単体として考えるシステムから、カーシェアリング、ITS など交通のシステムとしての側面をとらえる範囲までデザインの対象とする。但しシステムの提案と同時に必ず乗るものをデザインこと。

[授業計画・授業内容]

1. ガイダンス
2. テーマの選定・現状および問題点の把握
3. ブレーンストーミングによる問題点の整理
4. デザインコンセプトの作成
5. デザイン展開 1
6. デザイン展開 2
7. デザイン展開 3
8. アイデアの絞り込み
9. 中間プレゼンテーション
10. レンダリング完成
11. モデル作成 1
12. モデル作成 2
13. モデル作成 3
14. プレゼンテーション準備
15. プレゼンテーション

[キーワード] アドバンスデザイン, ビジネスモデル, ネットワークプロダクツ, トランスポーター

[教科書・参考書] なし

[評価方法・基準] 課題提出

[履修要件] 製品デザイン表示論演習 I,II, 基礎製品デザイン演習 I,II, 製品デザイン演習 I,II デザインシステム計画演習 I を履修していること

[備考] 受講者は (N) システム・デザインと (A) アドバンスド・トランスポーターどちらかを受講すること。
(N) は金曜日 4 コマの半分-5 コマ (A) は金曜日 3 コマ-4 コマの半分で開講する。

TF049101

授業科目名: デザイン心理学演習 II
 科目英訳名: Design Psychology II (Lec & Lab)
 担当教官: 日比野 治雄
 単位数: 3.0 単位
 開講時限等: 3 年後期火曜 3 限 / 3 年後期火曜 4 限前半
 授業コード: TF049101, TF049102
 講義室: 工 2 号棟 101 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度 1994 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				T1:工業意匠 A 専門選択 (F30)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択必修 (F30)	専門選 択必修 (F30)	専門選 択必修 (F30)		

[授業の方法] 演習

[授業概要] デザイン心理学演習 I で修得した基礎知識を踏まえた上で、さらにデザイン心理学について深い知識および能力を習得することを目的とする。そこで、本演習では、人間とデザインとの関わりに対する心理学的なアプローチの応用的側面について実践的に学ぶ。

[目的・目標] デザイン心理学演習 I で修得した基礎知識を踏まえた上で、さらにデザイン心理学について深い知識を身につけることを目的とする。実際に心理学的な視点からデザインを捉えるような課題を体験的に行い、デザイン心理学の研究を身近なものとして捉え直すとともに、卒業研究の方向付けまでを目標としたい。主として色彩関係のトピックを取り上げ、デザインにおいて重要な配色の問題まで実習課題を通して扱って行きたい。

[授業計画・授業内容] 以下のような内容について、演習形式で学ぶ機会を設ける：デザイン心理学とは（心理学的な考え方とはどのようなものか）；デザイン心理学の基礎と応用（デザインを心理学的視点から捉える）；形の知覚（形の知覚の応用）；色の知覚（色の知覚に関する諸問題）；カラーコーディネートに関連する問題（検定試験に関連する色彩の問題について学ぶ予定） 実習課題も行いながら、学生自身が学んだ成果をプレゼンテーションの形で発表する場も設ける。・上記の講義計画は、都合により変更されることもある。

[キーワード] デザイン心理学, 色彩, 形, 知覚

[教科書・参考書] 詳細については第 1 回の講義の際に伝える。

[評価方法・基準] (記述なし)

[関連科目] 色彩科学, デザイン心理学演習 I

[履修要件] デザイン心理学演習 I および色彩科学を履修していること。また、毎回出席することが前提である (遅刻・欠席厳禁!!)。

[備考] 受け入れ人数：40 人程度 成績評価方法：課題および発表

TF050101

授業科目名： 展示デザイン演習 科目英訳名： Display Design(Lec&Lab) 担当教官： 佐藤 公信, (鈴木 恵千代) 単位数： 3.0 単位 授業コード： TF050101, TF050102	開講時限等： 3 年後期水曜 1 限後半 / 3 年後期水曜 2 限 講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)
--	--

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度 1994 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				T1:工業意匠 A 専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 演習

[授業概要] 具体的な空間を想定し、実際に即したプロセスをとりながらデザイン提案を行う。

[目的・目標] 伝達・訴求機能を主目的として空間を演出するディスプレイ（展示）デザインの特性を認識し、計画上の構成要素について基本的な諸問題を考察する。また、課題を通し具体的なデザイン手法に関して造詣を深める。

[授業計画・授業内容] ・空間デザインの実例とデザインプロセスについて・ゾーニング 平面プランの考え方・アイディアの展開・表現手法について・課題 1 商業施設の企画・デザイン・課題 2 コミュニケーションスペースにおける展示計画・プレゼンテーション及び講評

[キーワード] 展示, 商業施設

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名： 人間工学演習 II

科目英訳名： Experiments on Ergonomics II (Lec & Lab)

担当教官： 勝浦 哲夫, 岩永 光一, 下村 義弘

単位数： 3.0 単位

開講時限等： 4 年前期火曜 1 限後半 / 4 年前期火曜 2 限

授業コード： TF060501, TF060502

講義室： 各研究室

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 人間工学では、さまざまなデザイン対象に関連した総合的な人間特性の評価が求められる。本講義では、種々の生理心理機能の測定方法について、理論と測定の実際を学ぶと共に、それらの知識と技術を応用したデザイン評価実験を行う。

[目的・目標] 人間の生理心理機能測定法、例えば発汗測定法、血流量測定法、心拍出量測定法、皮膚電位水準測定法、心拍変動測定法、脳波測定法などに関する理解と測定技術の修得を目指す。また、人間工学的な実験を遂行し、デザイン評価について考察し提案する能力の獲得を目指す。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 実験概要の説明 第 2 回 発汗測定法 第 3 回 血流量測定法 第 4 回 心拍出量測定法 第 5 回 皮膚電位水準測定法 第 6 回 心拍変動測定法 第 7 回 脳波測定法 第 8 回 筋電図・筋音図測定法 第 9 回 関節角度・動作測定法 第 10 回 実験 第 11 回 実験 第 12 回 実験 第 13 回 解析 第 14 回 解析 第 15 回 実験結果発表会

[教科書・参考書] 「身体の機能と構造計測マニュアル」垣罎・勝浦・山崎訳、文光堂。「環境人間工学」佐藤方彦・勝浦哲夫著、朝倉書店。「マンマシン・インターフェイス」佐藤方彦編、朝倉書店。「心理生理学」J.L. アンドレアッシ著、ナカニシヤ出版

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 人間工学演習 I 履修者

[備考] 成績評価法：出席、態度、解析他

授業科目名： 音響デザイン演習

科目英訳名： AcousticsDesign (Lec. and lab.)

担当教官： 佐藤 公信

単位数： 3.0 単位

開講時限等： 4 年前期水曜 3 限 / 4 年前期水曜 4 限前半

授業コード： TF060101, TF060102

講義室： 工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習

[授業概要] 音をデザインの対象として扱う上で必要とされる知識や方法について講義し、具体的な課題を通して実際に音響デザインを試みる。

[目的・目標] 音が持つコミュニケーション手段としての有効性を、様々な視点から考察し、音響デザインの役割と方法を考える。

[授業計画・授業内容] 第1回 ガイダンス 第2回 技術と音響 音の成立、音の物理特性 第3回 聴覚と音響 聞こえる音・聞こえない音、他の感覚との相互作用 第4回 メディアとしての音の役割 (1) 歴史的考察 蓄音機からヴァーチャルリアリティまで 第5回 メディアとしての音の役割 (1) 歴史的考察 音の記号論 第6回 人間行動と音情報 信号音、マン・マシンインタフェース 第7回 アートの中の音 サウンドインスタレーション、音響彫刻、音楽と音響デザイン 第8回 音をデザインする (1) 音のデザイン 音を作り、加工する技術 第9回 音をデザインする (2) 音響デザイン 空間音響計画、空間演出 第10回 音をデザインする (3) 音環境デザイン 騒音、サウンドスケープ・デザイン、環境音楽 第11回 コンピュータミュージック MIDI インタフェースと電子楽器 第12回 音響デザインの実例「場」をつくる音響デザイン 第13回 音を見つける/サウンド・ウォーク 千葉大学キャンパス内の音を体験する レポート提出 第14回 レポート発表 ディスカッション 第15回 まとめ

[キーワード] サイン音, 音情報, デザイン

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 録音機材を用意すること

TF053001

授業科目名 : 学外実習	開講時限等: 3,4 年通期集中
科目英訳名 : Extracurricular Activity	講義室 : 未定 (工学部)
担当教官 : デ工 (意匠系) 各教官	
単位数 : 2.0 単位	
授業コード : TF053001	

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)			
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築					専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF5:デザイン A 意匠	専門選 択科目 (F36)						

[目的・目標] 本実習の目的は、大学での講義および実習をとおして身につけたデザイン技術に関する能力を、実社会において具体的にどのように応用するか、また、大学では学べないデザイン実務等に関する体験を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 本実習は授業等の休業期間中にを利用して、学外の企業等の組織において実務を体験する。期間、実習内容等は学外の組織と本学科と調整の上で決定されるため、定期的に本実習が行われるわけではない。希望者は事前に学年担当教官に申し出て、その指導・指示に従うこと。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 履修にあたっては学年担任に申し出ること

[備考] 3・4 年次に履修

授業科目名：メディアデザイン演習 I
 科目英訳名：Communications Media Design I (Lec & Lab)
 担当教官：宮崎 紀郎, (大橋 透), (木村 博之)
 単位数：3.0 単位 開講時限等：2 年後期水曜 3 限 / 2 年後期水曜 4 限前半
 授業コード：TF055001, TF055002 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度 1997 年
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				T1:工業意匠 A 専門選 択必修 (F20)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 演習および講義

[授業概要] ビジュアルコミュニケーションデザインに関する基礎的な題材として、1 カレンダー制作、2 インフォグラフィックス、3 エディトリアルデザインをとりあげ、課題制作を行う。

[目的・目標] 基礎的な課題製作を通じ、伝えるべき情報内容とその表現形態のかかわりについて学ぶ。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 <課題 3> カレンダーの企画制作 各自カレンダーの用途、形式などのコンセプト建てをすることから、さまざまなレベルの情報と表現について実感する。 第 2 回 いろいろなタイプのカレンダーを見る。課題制作：アイデアスケッチ 第 3 回 カレンダーの企画制作プロセス。課題制作：原寸ラフスケッチ 第 4 回 カレンダーの傾向。課題制作：色彩つき原寸スケッチ 第 5 回 作品発表 (プレゼンテーション) 講評。 第 6 回 <課題 2> インフォメーショングラフィックス 課題の説明 第 7 回 テーマの確定。スケッチ。 第 8 回 構成要素を整える。原寸スケッチ。全体像の把握。 第 9 回 原寸色彩スケッチ。全体像の確認。 第 10 回 課題完成、講評。 第 11 回 <課題 3> エディトリアルデザイン「先生インタビュー」編集者、コピーライター、フォトグラファーなど、一人何役かをやってもらいます。先生の姿を的確にかつ興味深く紹介してください。 第 12 回 テーマの確定。スケッチ。 第 13 回 構成要素を整える。原寸スケッチ。全体像の把握。 第 14 回 原寸色彩スケッチ。全体像の確認。 第 15 回 課題完成、講評。

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 成績評価法: 課題提出

授業科目名：CG 演習
 科目英訳名：Computer Graphics (Lec & Lab)
 担当教官：玉垣 庸一
 単位数：3.0 単位 開講時限等：2 年後期水曜 4 限後半 / 2 年後期水曜 5 限
 授業コード：TF056001, TF056002 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度					
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		専門選 択 (F30)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)

[授業の方法] 演習および講義

[授業概要] CG 理論で学んだ基礎的な知識を具体的なプログラミングに展開する。

[目的・目標] コンピュータによる画像生成に関連した基礎的な課題製作を通じ、数理的手順による造形方法を習得する。

[授業計画・授業内容] 第1回 CG理論で学んだ内容との関係について説明 第2回 プログラミング言語の説明と演習1 第3回 プログラミング言語の説明と演習2 第4回 プログラミング言語の説明と演習3 第5回 グラフィックスへの応用1 第6回 グラフィックスへの応用2 第7回 色の記述への応用1-RGB 第8回 色の記述への応用2-HSV 第9回 簡単な2次元アニメーションの作り方1 第10回 簡単な2次元アニメーションの作り方2 第11回 簡単な3次元アニメーションの作り方1 第12回 簡単な3次元アニメーションの作り方2 第13回 課題説明 第14回 課題制作 第15回 課題講評

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] CG理論を履修済みであること

TF057001

授業科目名： デジタルデザイン論
 科目英訳名： Theory of Digital Design (Lec)
 担当教官： (大平 智弘)
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TF057001
 開講時限等： 3 年前期金曜 5 限
 講義室： 工 2 号棟 103 教室

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				TF1:工業意匠 A	1996 年 専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)	専門選 択 (F30)		

[授業の方法] 講義

[授業概要] 情報のデジタル化が我々の生活に及ぼした影響、またデザインプロセスそのものに及ぼした影響について、数理造形、デジタルイメージといったキーワードを取り上げながら考察をおこなう。

[目的・目標] 制作手順の客観的な記述の上に成り立つデジタルデザインが、定規・コンパスなどによる手作業とは本質的に異なるものであることを理解し、今後のデザインプロセスにその数理的な性格を積極的に活用していくことを目指す。

[授業計画・授業内容] 第1回 オリエンテーション 授業の進め方 第2回 デジタルデザインとは 第3回 デジタルデザインの現状1 第4回 デジタルデザインの現状2 第5回 造形のプロセス 第6回 数理造形 1 形・モデル・構造、そして造形ルールの発見 第7回 数理造形 2 形状記述と生成手続きの記述 第8回 2次元CGと3次元CG 第9回 デジタルイメージの認知、処理、生成 第10回 工業デザインにおけるデジタルイメージの展開 第11回 ビジュアルコミュニケーションデザインにおけるデジタルイメージの展開 第12回 デジタルデザインによる生産プロセス1 第13回 「もの」のデザインから「こと」のデザインへ 第14回 ポストCADとしてのコンピュータデザイニクス 第15回 試験

[評価方法・基準] (記述なし)

授業科目名：メディアデザイン演習 II
 科目英訳名：Communications Media Design II (Lec & Lab)
 担当教官：宮崎 紀郎, 小原 康裕, (塩谷 徹)
 単位数：3.0 単位 開講時限等：3 年前期火曜 1 限後半 / 3 年前期火曜 2 限
 授業コード：TF058001, TF058002 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)		

[授業の方法] 演習および講義

[授業概要] ビジュアルコミュニケーションデザインにおける各種媒体（映像メディア、紙メディアを含む）について、それぞれのコミュニケーションの考え方から実際の制作に至るプロセスを学び、課題制作を行なう。

[目的・目標] ビジュアルコミュニケーションにおける各種媒体（映像メディア、紙メディアを含む）のデザインプロセスを学ぶこと。

[授業計画・授業内容] 第 1 回 <課題 1> 広告コミュニケーション 個人課題テーマ：サムネール制作 グループ課題テーマ：雑誌広告制作 TV 広告・新聞広告・雑誌広告・交通広告・チラシ広告・屋外広告などの媒体特性と効果的な表現について事例を紹介しながら講義。 第 2 回 個人課題演習 (1) と講評 第 3 回 個人課題演習 (2) と講評 第 4 回 グループ課題演習 第 5 回 グループ課題講評 第 6 回 <課題 2> ビジュアルキャンペーン キャンペーンのテーマは、社会的な問題（といて必ずしも大問題でなくてよい）とし、商品キャンペーン避ける。例えば、「新聞を読むことのすすめ」、「南棟における空き缶回収案」など、自分の関心が大きくこれは主張したいと思うことがらを選ぶ。 第 7 回 問題の状況の調査キャンペーンコンセプトづくり 第 8 回 媒体の決定問題を認識させる（訴求対象者に）ための構成表現コンセプトづくり 第 9 回 表現要素（コピー、イラストレーション、マーク、ロゴタイプなど）の制作、原寸色彩スケッチ 第 10 回 本制作 第 11 回 <課題 3> WEB サイトの制作 ・インターネット公開を前提とした WEB サイトの構築する。 ・<課題 1> <課題 2> で制作した広告、キャンペーンなどを WEB 上で展開する。・HTML の基本文法、インターネットのもつメディア特性に対する理解を深める。 インターネットについて（講義） 第 12 回 アイデアの展開 トップページのカンプの制作 第 13 回 ページ構成のアイデア展開 カンプの中間講評 第 14 回 ページ構成を含めたプレゼンテーション 第 15 回 講評

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 成績評価法:課題提出

授業科目名：メディアデザイン演習 III
 科目英訳名：Communications Media Design III (Lec & Lab)
 担当教官：(児山 啓一), (松原 正毅), (山田 茂)
 単位数：3.0 単位 開講時限等：3 年後期木曜 3,4,5 限
 授業コード：TF059001, TF059002, TF059003 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度
	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		
TF1:デザイン A デザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)				T1:工業意匠 A	専門選 択必修 (F20)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)		
TF3:デザイン A メディアデザイン	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)	専門選 択必修 (F20)		
TF4:デザイン A 建築				専門選 択(F30)	専門選 択(F30)	専門選 択(F30)		

[授業の方法] 演習および講義

[授業概要] 視覚デザインに関係するさまざまな分野で活躍している専門家による、それぞれの分野の特性、ならびに現状と展望の概説を行なう。

[目的・目標] 視覚デザインに関係するさまざまなデザイン分野の最新情報に接し、現状の問題点や今後の展望の考察結果に基づいて、具体的なデザイン提案を行うこと。

[授業計画・授業内容] 第1回 公共サインとは サインの基本要素、情報の種類、表現要素(サインエレメント)、公共のサインの目的とは。 第2回 街の公共サイン 公共建築、公園、市街におけるサイン計画の手法について。
 第3回 空港の公共サイン 日本の空港と世界の空港の現状、多言語とピクトグラム 色彩の役割などについて。
 第4回 駅の公共サイン 駅と車両の連携、JR・民鉄・地下鉄の相違、自動化(省力化)は誰のため? 第5回 フィールドスタディー。JR千葉駅と新東京国際空港を見学して、各々の特性と共通性、視認度等について実体験する。 第6回 パッケージデザインの領域。グラフィック・デザイン、インダストリアル・デザイン。演習:課題出題、スケッチ。 第7回 パッケージに求められる機能の変遷。販売促進、保護、保管、生産、社会性、環境適性。演習:課題スケッチ。 第8回 人間工学とパッケージ・デザイン。道具としてのデザイン。演習:課題ロゴタイプのスケッチ。 第9回 商品計画とパッケージ・デザイン。商品計画、宣伝、販売、物流。演習:課題シンボルマーク等スケッチ。 第10回 パッケージ・デザイン制作のシステム。スケッチ、ロゴタイプ、シンボルマーク、パターン、レイアウト、プレゼンテーション。演習:課題まとめのスケッチ。 第11回 放送局におけるCG利用と制作 CG概論と放送局のCG 第12回 ニュース・選挙・スポーツ・天気は文字情報でいっぱい デザイナーのふるさとの世界 第13回 オールデジタル・カメラレス映像について 第14回 ヴァーチャルセットとリアルタイム3DCG CGキャスター・CGタレントの誕生はいつ? 第15回 まとめ

[評価方法・基準] (記述なし)

[備考] 成績評価法:課題提出

TG093201

授業科目名: 機械工作実習 B
 科目英訳名: Practical training in machining B
 担当教官: 渡部 武弘
 単位数: 1.0 単位
 授業コード: TG093201, TG093202
 開講時限等: 4 年前期金曜 4 限 / 4 年前期金曜 5 限前半
 講義室: 工電子機械工学科機械工場(13号棟 102)

科目区分表

学科 コース	入学年度						学科 コース	入学年度				
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年		1998 年	1997 年	1996 年	1995 年	1994 年
TF1:デザイン A デザイン		専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	T8:画像 A	実験実習 (F28)	実験実習 (F28)	実験実習 (F28)	選択必修 専門I類 (F26)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	TD:画像 B	実験実習 (F28)	実験実習 (F28)	選択必修 専門I類 (F26)	選択必修 専門I類 (F26)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F36)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)	専門選 択科目 (F30)					
TF5:デザイン A 意匠	専門選 択科目 (F36)											

[授業の方法] 実習

[受入人数] 30名

[受講対象] 自学部他学科生 履修可; デザイン工学科(意匠系)4年生

[授業概要] 前半は、もの作りにおける各種加工法を基礎実習で体験する。後半では、各自がオリジナル作品をコンセプト 設計 製作工程検討 加工を行い製作する。発表会でプレゼンを実施する。

[目的・目標] 物作りの基本となる生産技術や加工技術を実際に体験し、種々の工作法を修得すると共に、物を加工する工程を把握し、生産設計や生産計画を行えるエンジニアセンスを育成する。

[授業計画・授業内容] 機械部品には丸物、平面上の物、複雑形状の物等がある。旋盤を用いた丸物の加工、フライス盤による平面加工、複雑形状の加工が可能な放電加工等を体験する。また、機械部品を接合させるための電気溶接とガス溶断も体験する。これらの加工は、NC装置による自動化の方向にある。そのため、NCプログラミングについても勉強する。

1. ガイダンス、実習上の注意、実習内容の解説、班分け

2. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
3. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
4. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
5. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
6. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
7. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
8. 基礎実習
汎用旋盤 (基本操作), 立フライス盤 (基本操作), 溶接 (アーク溶接、ガス溶断、TIG 溶接), CNC 旋盤 (プログラミング), マシニングセンタ (対話式プログラム), ワイヤ放電加工 (CAD・CAM)
9. 自由課題製作実習 (作品コンセプト、図面、材料選択、加工検討)
汎用旋盤,
フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工
10. 自由課題製作実習
汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工
11. 自由課題製作実習
汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工
12. 自由課題製作実習
汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工
13. 自由課題製作実習
汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工
14. 自由課題製作実習
汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工
15. 自由課題製作実習
汎用旋盤, フライス盤, 溶接, マシニングセンタ, ワイヤ放電加工

[キーワード] 機械加工、CAD、CAM、放電加工、溶接

[教科書・参考書] 項目によりプリントを配布する

[評価方法・基準] 加工作品、レポート、課題、感想文、出席、製作作品発表会

[関連科目] 精密加工学、デザイン工学

[履修要件] 全日程を出席すること。病欠・公欠の場合には補講を実施する。オリジナル作品の構想・スケッチ・図面を初回に提出すること。

[備考] 人身事故などを予防し安全に作業するために、作業着および靴を着用すること。また、作業中は注意力を集中し、慎重に行動すること。受講人数により内容を変更することがある。製作した作品は、工学部祭などで年内展示を行う。

授業科目名：卒業研究（意匠・3年）
 科目英訳名：Graduation Study
 担当教官：デ工（意匠系）各教官
 単位数：6.0 単位
 授業コード：TF062001

開講時限等：3年後期月曜 4,5 限
 講義室：各研究室

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)			
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF5:デザイン A 意匠	専門必修 (F10)						

[目的・目標] 学部の各学年において習得したデザインに関する知識、技能を総合する能力を身につけることを目的とする。同時にそれらの能力が充分社会的にも応用でき、かつ、通用する能力かを検討することも卒業研究の目的である。

[授業計画・授業内容] 3 年次後期において、学生は意匠系 9 教育研究分野の各研究室に配属される。学生は配属された研究室の専門性を基に卒業研究課題を個別に設定する。設定した課題について、研究室の指導教官からゼミ等を行うとして随時研究指導を受けながら進める。研究成果は論文、論文・制作、制作の三つの形式の内一つを選べる。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 卒業研究は、各教育研究分野に配属を許可されることが条件である。

授業科目名：デザイン工学総合プロジェクト
 科目英訳名：Collaborative Research & Design Projects
 担当教官：デ工（意匠系）各教官
 単位数：6.0 単位
 授業コード：TF061001, TF061002

開講時限等：3 年後期月曜 4,5 限
 講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		専門必修 (F10)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF5:デザイン A 意匠	専門必修 (F10)						

[授業の方法] 講義、演習、実験、実習、実技

[授業概要] 多くのデザイン領域にかかわるテーマの中から 1 つを選定し、教官チームの指導のもと、グループによる調査・デザインを行う。

[目的・目標] それぞれの基盤となる専門性を追求するとともに、異なる専門領域とのコラボレーションによって、より複雑で幅広い研究やデザインに生かしていく方法を習得する。第 7 および第 8 セメスターまで一貫して行い、卒業研究と同等の卒業要件を形成。

[授業計画・授業内容] 本演習はその時点での社会的問題に関係する課題を、デザインの問題として設定する。1～5：課題に関する周辺分野の既往研究、状況調査と分析、6～10：課題解決のためのコンセプトデザイン作成作業、11～15：コンセプトデザインをプロトタイプデザインへ変換する作業とプレゼンテーションを行う。本演習は第 6、7、8 セメスター一貫して進める。そのため、各セメスターでは以上の作業をくり返しながらより質の高い解決案に進める。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 課せられる作業内容は高度である。また、チーム作業が主となるため、途中で受講を中止したり、断わりなく欠席することは原則的に許されない。履修登録にあたっては十分考慮すること。

授業科目名：卒業研究（意匠・4年）	
科目英訳名：Graduation Study	
担当教官：デ工（意匠系）各教官	
単位数：6.0 単位	開講時限等：4 年前期月曜 2,3,4 限 / 4 年後期月曜 3,4,5 限
授業コード：TF062101	講義室：各研究室

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度	
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1996 年
TF1:デザイン A デザイン		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)				T1:工業意匠 A	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)			
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)			
TF5:デザイン A 意匠	専門必修 (F10)									

[授業の方法]

[目的・目標] 学部の各学年において習得したデザインに関する知識、技能を総合する能力を身につけることを目的とする。同時にそれらの能力が充分社会的にも応用でき、かつ、通用する能力かを検討することも卒業研究の目的である。

[授業計画・授業内容] 3 年次後期において、学生は意匠系 9 教育研究分野の各研究室に配属される。学生は配属された研究室の専門性を基に卒業研究課題を個別に設定する。設定した課題について、研究室の指導教官からゼミ等をとって随時研究指導を受けながら進める。研究成果は論文、論文・制作、制作の三つの形式の内一つを選べる。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 卒業研究は、各教育研究分野に配属を許可されることが条件である。

[備考] 履修登録は通期集中の欄から行ってください。

授業科目名：デザイン工学総合プロジェクト	
科目英訳名：Collaborative Research & Design Projects	
担当教官：デ工（意匠系）各教官	
単位数：6.0 単位	開講時限等：4 年前期月曜 2,3,4 限 / 4 年後期月曜 3,4,5 限
授業コード：TF061004	講義室：工 1-401 (デザイン実習室)

科目区分表

学科 コース	入学年度						
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年
TF1:デザイン A デザイン		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)		専門必修 (F10)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)	専門必修 (F10)
TF4:デザイン A 建築					専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF5:デザイン A 意匠	専門必修 (F10)						

[授業の方法]

[授業概要] 多くのデザイン領域にかかわるテーマの中から 1 つを選定し、教官チームの指導のもと、グループによる調査・デザインを行う。

[目的・目標] それぞれの基盤となる専門性を追求するとともに、異なる専門領域とのコラボレーションによって、より複雑で幅広い研究やデザインに生かしていく方法を習得する。第 7 および第 8 セメスターまで一貫して行い、卒業研究と同等の卒業要件を形成。

[授業計画・授業内容] 本演習はその時点での社会的問題に関係する課題を、デザインの問題として設定する。1~5: 課題に関する周辺分野の既往研究、状況調査と分析、6~10: 課題解決のためのコンセプトデザイン作成作業、11~15: コンセプトデザインをプロトタイプデザインへ変換する作業とプレゼンテーションを行う。本演習は第6、7、8セメスター一貫して進める。そのため、各セメスターでは以上の作業をくり返しながより質の高い解決案に進める。

[評価方法・基準] (記述なし)

[履修要件] 課せられる作業内容は高度である。また、チーム作業が主となるため、途中で受講を中止したり、断わりなく欠席することは原則的に許されない。履修登録にあたっては十分考慮すること。

[備考] 履修登録は通期集中の欄から行ってください。

TZ052001

授業科目名: 知的財産権セミナー 科目英訳名: 担当教官: (三中 英治), 渡部 武弘 単位数: 2.0 単位 授業コード: TZ052001	開講時限等: 3 年前期火曜 5 限 講義室: 工 2 号棟 103 教室
--	--

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度	
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1996 年
TE:都市環境	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	TI:工業意匠 A	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)
TF1:デザイン A デザイン		専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	TB:情報 B	専門選択 (F30)	
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)			
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)			
TF4:デザイン A 建築	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)			
TF5:デザイン A 意匠	専門基礎 選択必修 (E20)									
TH:情報画像 A	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)			
TH1:情報画像 A 情報工学		その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)			
TH3:情報画像 A 画像材料工学		その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)			
TH4:情報画像 A 画像システム工学		その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)	その他 (Z99)			
TI:物質 A				その他 (Z99)						
TJ:都市環境 B	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)			
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)			
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)			

[授業の方法] 講義

[受入人数] 100 人まで

[受講対象] 自学部他学科生 履修可

[授業概要] 工学部の学生が社会に出て必要とする知的財産権について論述する。特に特許、商標、不正競争防止法、著作権等に関する知識を実例を基に解説し、また、各国の知的財産制度にも触れ、国際的視点からも論述する。

[目的・目標] 技術者としての権利と義務の基本となる知的財産権に関する知識の習得を目的とする。

[授業計画・授業内容]

1. 知的財産(権)とは
2. 特許制度とは
3. 先行技術の調査
4. 請求の範囲、明細書、図面

5. 出願の審査
6. 審判
7. 特許権の効力
8. 実用新案権、意匠権、著作権
9. 商標権、意匠権、著作権
10. 特許を巡る裁判 1 (均等論、当然無効)
11. 特許を巡る裁判 2 (従業員の発明)
12. 外国での特許等の取得
13. 特許権侵害対策 (権利者側)
14. 特許権侵害対策 (侵害者側)
15. 試験

[キーワード] 知的財産を知らない技術者に明日はない

[教科書・参考書] 参考書配布予定、また、毎回プリントを配布する

[評価方法・基準] 試験及び適宜レポートを求める

[履修要件] 知的財産に興味を持つこと

TZ051001

授業科目名： 工学倫理
 科目英訳名： Engineering Ethics
 担当教官： 早乙女 英夫
 単位数： 2.0 単位
 授業コード： TZ051001
 開講時限等： 3 年後期月曜 5 限
 講義室： 総 B

科目区分表

学科 コース	入学年度							学科 コース	入学年度		
	2004 年	2003 年	2002 年	2001 年	2000 年	1999 年	1998 年		1997 年	1996 年	1995 年
TE:都市環境	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	T1:工業意匠 A	専門基礎 選択必修 (E20)		
TF1:デザイン A デザイン		専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	T4:情報 A	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF2:デザイン A インダストリアル デザ		専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	T8:画像 A	選択必修 専門 1 類 (F26)	選択必修 専門 1 類 (F26)	選択必修 専門 1 類 (F26)
TF3:デザイン A メディアデザイン		専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	TB:情報 B	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)
TF4:デザイン A 建築	専門選択 (F30)		専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	専門選択 (F30)	TD:画像 B	選択必修 専門 1 類 (F26)	選択必修 専門 1 類 (F26)	選択必修 専門 1 類 (F26)
TF5:デザイン A 意匠	専門基礎 選択必修 (E20)										
TH:情報画像 A	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F30)				
TH1:情報画像 A 情報工学		専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F30)				
TH3:情報画像 A 画像材料工学		専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	選 択 必 修 A 群 (F29)				
TH4:情報画像 A 画像システム工学		専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	専門 選 択 必 修 (F20)	選 択 必 修 A 群 (F29)				
TI:物質 A				専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)				
TI1:物質 A 化学 物質化学			専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)				
TI2:物質 A 機能 物質機能			専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)				
TI3:物質 A 物性 物質物性			専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)	専門 選 択 必 修 (F30)				
TJ:都市環境 B	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)				
TJ1:都市環境 環 境	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)				
TJ2:都市環境 メ ディア メディア	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)	専門基礎 選択必修 (E20)				
TK2:先進フロン ティア	専門 基 礎 選 択 (E30)										

[授業の方法] 講義

[受入人数] 250 名

[受講対象] 工学部 2～4 年次 (学科により指定あり)、

[授業概要] 工学は、科学・技術のさまざまな成果を活かし、我々の生活及び生活環境を豊かにする実践の学である。しかし、その使用の方向、利用の仕方が適正でない時、社会的な大きな混乱や損失が生じ、ひいては個人の生活を脅かす事態となる。本講義では、社会との関係における工学者の使命、規範、役割、権利と義務等について広範な視点から論述する。

[目的・目標] 技術者が社会において、正しい倫理観に基づいた技術の発展と社会貢献を進めるための、基本的な概念と知識を身につけることを目的とする。

[授業計画・授業内容] 以下は平成 16 年度の授業内容に更新しました。(20040712)

1. 10 月 4 日 (月) ガイダンス (渡部 武弘 千葉大学工学部)
2. 10 月 18 日 (月) 職能倫理としての工学倫理 (土屋 俊 千葉大学文学部)
3. 10 月 25 日 (月) 工学倫理の特徴 (忽那 敬三 千葉大学文学部)
4. 11 月 8 日 (月) 倫理とは (高橋 久一郎 千葉大学文学部)
5. 11 月 15 日 (月) 工学者の高齢者・障害者への対応 (市川 薫 千葉大学大学院自然科学研究科)
6. 11 月 22 日 (月) ネットワーク倫理 (島倉 信 千葉大学大学院自然科学研究科)
7. 11 月 29 日 (月) エネルギー産業と環境倫理 (町田 基 千葉大学工学部)
8. 12 月 6 日 (月) 組織における工学者の倫理 (中込 秀樹 千葉大学工学部)
9. 12 月 13 日 (月) 技術者の倫理と国際化 (野口 博 千葉大学工学部)
10. 12 月 20 日 (月) 技術者の知的所有権等財産的権利 (1) (三中 英治 千葉大学非常勤講師)
11. 1 月 17 日 (月) 技術者の知的所有権等財産的権利 (2) (三中 英治 千葉大学非常勤講師)
12. 1 月 24 日 (月) 製造物責任 (PL) 法 (1) (小賀野 晶一 千葉大学法経学部)
13. 1 月 31 日 (月) 製造物責任 (PL) 法 (2) (小賀野 晶一 千葉大学法経学部)
14. 2 月 7 日 (月) 試験 (三中 英治 千葉大学非常勤講師)
15. 2 月 9 日 (水) 生命 (医療) 倫理の特性と歴史 (田邊 政裕 千葉大学医学部附属病院)

[キーワード] 工学者の使命、モラル、義務、規範、技術者倫理、

[評価方法・基準] 出席及びテスト

[履修要件] 受入人数 250 名、各学科の科目区分はオンラインシラバスを参照のこととし、表示がない場合は各学科担任に確認して下さい。

[備考] 開講場所は総合校舎 B 号館講師のご都合により順番、内容に関して変更する場合があります。受講票の提出は必要ありませんが授業に出席する前 (初回は 10/3 まで) にあらかじめ履修登録をしておいてください。その後の履修登録の削除も認めますが履修登録期間 (平成 16 年 10 月 1 日 (金) ~ 10 月 18 日 (月)) に履修登録削除してください。